

上智大学

教育研究上の目的、人材養成の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

目 次

1. 神学部	3
神学科	3
2. 文学部	4
哲学科	5
史学科	6
国文学科	7
英文学科	8
ドイツ文学科	10
フランス文学科	11
新聞学科	12
3. 総合人間科学部	14
教育学科	15
心理学科	16
社会学科	17
社会福祉学科	18
看護学科	19
4. 法学部	22
法律学科	22
国際関係法学科	23
地球環境法学科	24
5. 経済学部	26
経済学科	27
経営学科	28
6. 外国語学部	30
英語学科	31
ドイツ語学科	32
フランス語学科	33
イスパニア語学科	35
ロシア語学科	36
ポルトガル語学科	37

7. 総合グローバル学部	39
総合グローバル学科	39
8. 国際教養学部	41
国際教養学科	41
9. 理工学部	43
物質生命理工学科	44
機能創造理工学科	45
情報理工学科	47
10. ディプロマ・ポリシーに係る共通事項	49
11. 全学共通科目のカリキュラム・ポリシー	49
12. 語学科目のカリキュラム・ポリシー	49
13. 大学のアドミッション・ポリシー	
1) 大学全体のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）	51
2) 各入試におけるアドミッション・ポリシー	51
 (別添)	
SPSF対象学科の教育研究上の目的、人材養成の目的及び3つのポリシー	53

1. 神学部

神学科

〔教育研究上の目的〕

神学を中核とし、キリスト教倫理並びにキリスト教文化を包括するカトリシズムをその歴史の変遷を踏まえて教育し、キリスト教的価値観の創造的発展に寄与すること

〔人材養成の目的〕

カトリック教会と国際社会に貢献するために、キリスト教的価値観に基づく教養を備えた地球市民的人材や聖職者・教職者を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. カトリック神学とその価値観の基礎を修得し、それにもとづいて現代世界における諸問題に学問的にアプローチし、また実践的にコミットできる能力
2. 学生が選択した「系」の分野に関して十分に精通し、当該領域の諸問題について分析・考究する能力
3. 神学を研究するための調査・論考・発表に関するアカデミック・スキルズ
4. 学生が選択した「系」の分野に沿ったテーマで卒業論文を完成させる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のような科目群によりカリキュラムを編成しています。

1. カトリック神学の基礎的素養を養う科目群
2. 学生が選択する「系」（神学系、キリスト教倫理系、キリスト教文化系）に沿って、学生が各自の関心に従い、より専門的に勉学を深めるための選択必修科目群
3. 神学を研究するための調査・論考・発表に関するアカデミック・スキルズを養う必修科目群
4. 神学の勉学を総合する卒業論文執筆に向けた、問題解決と発表の能力を育てるための必修科目群
5. 教皇庁認可神学部共通の国際的学位（STB/STL/STD）を取得するための基準に則した神学専門科目、また教会の必要に応えるための宣教実務に関する科目

〔アドミッション・ポリシー〕

本学部では、カトリック神学を主な教育研究の対象としており、以下のような学生を受け入れます。

1. キリスト教に関する基本的知識を持っていること。
2. 異文化や国際性に開かれた柔軟な思考能力があること。
3. 人間の尊厳と社会正義に関心を持ち、ボランティア活動などの実践にも積極的であること。
4. カトリック教会と人類社会への貢献を望むこと。

多様な背景をもった学生を積極的に受け入れるために複数の試験制度を設け、日本語の他に英語やそれ以外の語学能力と歴史の知識の試験を行い、面接試験を重視します。また聖職志願者をはじめ社会の多様な人々を受け入れるため、編入学枠を設けています。

2. 文学部

〔教育研究上の目的〕

高度な専門教育と質の高い学術研究に基づいて、人文教養の本質である人間探究を行い、もって人類の精神的遺産を将来に継承し、世界と人間を真に理解する力を養うこと

〔人材養成の目的〕

分析力・理解力・表現力の陶冶に基づいて、世界と人間の本質を洞察する根源的な知性を養い、自己実現の自覚をもちつつ主体的に思考し、世界に寄与する自律的人間を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、哲学・思想・歴史・文学・文化・芸術・情報・身体などを、人文学の基盤にある人間の尊厳とのかかわりのなかで研究します。人文教養を涵養することで、社会のさまざまな分野で未来を創造できる自律的な人間を養成します。また、高度な専門教育と質の高い学術研究の成果を活かして、広く社会と世界に貢献できる人を育てます。学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めており、次の卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 人間の歴史・文化が集約された資料・情報を、自らの力で批判的に分析・解釈・評価する能力
2. 人文教養の基盤である人間性・人格性について深く考察し、十分な裏付けに基づいた自らの意見を他者に分かりやすく表現する能力
3. 日本語、外国語を問わず、言語とそれが使われる文化に対する深い理解に基づいた高度なコミュニケーション力
4. 人文教養を、社会生活、職業生活、市民生活、ひいては人生そのもの実践的かつ創造的に役立てる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門分野別の学科編成をとっています。各専門分野を学ぶ学生ひとりひとりの関心を重視し、人格的關係に基づいた指導を行います。質の高い、一貫したカリキュラムを通して、学生と教員が一体となって、「人間を考える学問」としての人文学研究に取り組むことができるよう、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 学部の初年次研修で、基礎的な人文学研究の特徴・勉学態度・表現方法などを指導する。
2. 初年次から、各分野の専門教育をカリキュラムに含め、卒業時まで充実した一貫教育を行う。
3. 少人数授業やゼミナールによって、学生の自主性・分析力・理解力・表現力・対話力を集中的に養う。
4. 全学共通の外国語科目に加えて、各学科の専門的な語学教育を徹底して行う。
5. 全学科で卒業論文を必修科目として、長期間にわたる個人指導を行い、総合的な学習到達度を判定する。
6. 学科科目とは別に学科横断型のプログラムを設け、各学科の専門領域を超えた人文学の知見を広める機会を設ける。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学部は、人間性の探究および人文教養の各領域について深く幅広い関心と動機づけを持つ学生が、学科を選択して入学し、自発的かつ積極的な態度で学業に研鑽することを期待します。そこで、次のような学生を受け入れます。

1. 人文教養を主体的に探究しようとする意欲と、学業への誠実な態度を持っている。

2. 志望する個別の専門分野について具体的な関心を持っている。
3. ものごとを批判的に考え、自らの意見を明確に表現するための基礎的なスキルを身につけている。
4. 大学での学修に必要とされる基礎的な教養、知識、語学能力を備えている。

哲学科

〔教育研究上の目的〕

建学の精神である上智の探求philosophiaに基づき、古今の哲学思想や哲学的問題をその本質から学ぶことによって、優れた思考力・理解力・表現力を養うこと

〔人材養成の目的〕

哲学・倫理・美学・宗教等の研究者及び教育者を育成するとともに、他者のために、他者とともに生きる自律的な人格を育成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、建学の精神である上智の探究（Philosophia）の理念に基づき、哲学・思想を根本から研究することによって、人間と世界に関する広く深い理解をもって現代社会に貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 人間と世界をめぐる哲学的問題、なかでも「真」「善」「美」という基本的価値をめぐる哲学的問題の内容と意味を十分に理解し、それらを自ら考える能力
2. 哲学的問題を探求してきた人類の歩みに関する十分な知識・教養をもち、その探究の継承者としての自覚と責任をもって探究を続ける能力
3. 哲学的問題を自ら考えかつ他の人々と共に考え、哲学の古典文献を原語で読解する能力
4. 現代社会の諸事象の根底にある哲学的問題を洞察し、それを哲学的な知識・教養および思考力を基盤として探究し、その成果を説得的に表現する能力
5. 以上の哲学的知識・技能・態度を基盤として、自律的に〈他者のために、他者とともに〉生きることによって、多様なものが共生する世界に貢献する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 「体系的な科目」（「人間論」「認識論」「自然神学」「形而上学」「倫理学」「美学」）により、哲学の諸問題に関する系統的な理解と、それらをめぐる哲学的な思考力を養う。
2. 「哲学史科目」（「古代哲学史」「中世哲学史」「近代哲学史」「現代哲学史」）により、人類の哲学的探究の歩みに関する知識と教養を養う。
3. 「演習科目」および「文献講読」により、哲学的な問題を討論・対話を通じて探求する技法と作法、哲学的文献の読解の技能、およびそれに必要な外国語の技能を養う。
4. 「哲学思想系列」「倫理学系列」「芸術文化系列」の三系列に配置された「系列科目」により、一人一人の哲学的関心を系統的に方向づけ、主体的に研究に取り組む技法と作法を養う。
5. 「卒業論文指導」「卒業論文」により、探究を自律的に計画・遂行し、その成果を公共的・学術的に表現する技法と作法を養う。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 人間とそれをとりまく世界にさまざまな問題を見出し、その問題の表層的な解決ではなく本質的な理解を求めて、主体的・対話的・協働的に探求することに強い関心と意欲を持つ。
2. 〈知恵を愛し求めること〉としての哲学を通じて思考力、判断力、表現力を陶冶することによって、〈他者ととともに他者のために生きる〉ことに強い関心と意欲を持つ。
3. 人間の社会、文化、歴史に関する基礎的な知識・教養と、日本語の優れた理解力・表現力、および堅実な英語の技能を持つ。

史学科

〔教育研究上の目的〕

歴史学の理論や方法を学ぶことによって、種々の出来事や社会現象に対する鋭い調査能力や真偽鑑定能力、さらに社会や時代を多元的・総合的に評価できる力を養うこと

〔人材養成の目的〕

過去への探求によって、人間社会の問題点の歴史的起源を理解し、現状改革のために自分の考察結果を広く社会に発信して、未来への指針を示すことのできる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、現代社会を現状固定的にではなく、歴史的に形成されてきたものとして批判的にとらえる能力を身につけ、多文化共生の基盤となる多元的な歴史認識と国際的な視野をもって、社会に貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. さまざまな社会事象現象について広い視野から歴史的な洞察をする能力
2. 既存の研究に即して、自ら問題を発見する能力
3. 各種の史料を正確に解読し、史実を調査・分析する能力
4. 調査結果から一定の歴史像を構築し、的確に表現・発信する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、「幅広い学習から専門性の高い研究」へといたるよう、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 1年次に、歴史学の初歩的な理論や方法を学び（「研究入門」「入門演習」）、各分野の基礎知識を幅広く獲得させる（各種「概説」）。
2. 2年次に、各自の専攻分野を決定し、それぞれの分野の重要な諸研究や原史料に触れる（「教養演習」、「講読演習」）とともに、最新の研究成果や専門的な知識・技法・考察能力を身につけさせる（各種「特講」）。
3. 3年次に、原語で書かれた専門書や原史料の正確な読解能力を培うとともに、プレゼンテーションや討論を通じて研究能力の育成をはかる（各種「演習」）。
4. 4年次に、これまでの学修の集大成として、自ら問題を発見して追究し、それを論理的・客観的に表現・発信する力を身につけさせる（卒業論文）。

〔アドミッション・ポリシー〕

歴史学は「過去を学ぶことによって、現在を深く理解し、未来への指針を獲得する」学問です。それに向いている資質を持った以下のような学生を受け入れます。

1. さまざまな社会事象やその歴史的背景について、幅広い関心と知識欲を持っていること。
2. ありきたりの解説に満足せず、自分の頭で考え問題点を発見しようとする主体性を持っていること。
3. 史料の記述とねばり強く対話し、客観的に読解できるような忍耐力、文脈を把握する論理的な思考力を持っていること。
4. 自らの主張を理論的に組み立て、他者に分かりやすく提示できる表現力を持っていること。

国文学科

〔教育研究上の目的〕

日本文化研究の中核を担う学科として、国文学・国語学・漢文学の有機的連関のもと、古典学を教育・研究の基盤にすえ、読解力・思考力・表現力を鍛えながら、人間・社会・文化の本質を問う学識と見識を養うこと

〔人材養成の目的〕

専門性と学際性を兼ね備えた多角的な思考方法の養成を重視し、教育・研究の世界をはじめ、国際化のなかで貢献しうる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、原典資料を精密に解読する力を持ち、そこから得られた確実な論拠に基づいて、独自の見解を説得力のある形で公表することができることを目指し、どのような時代・分野を専攻する者でも、国文学（日本文学）・国語学（日本語学）・漢文学の三分野を偏りなく学びます。学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めており、卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 江戸期以前の原典資料が精確に解読できる技術を身に着け、そのために必要な、背景の文学史・国語史の知識を活用する能力
2. 江戸期以降の板本や、近代・現代の多種のメディアを理解し、それらに依存した各時代の言語表現についての、的確な判断力
3. 上代から現代に至る各時代の言語作品の歴史とそれぞれの特質を、原典資料に基づいて理解し、諸学説の得失を根拠を以て論じる能力
4. 各時代の日本語の音韻・文法特徴を、具体的な言語作品に基づいて調査する方法を修得し、その調査に基づき独自の見解を発表する能力
5. 漢文訓読の技術を身に着け、漢文訓読の歴史を把握した上で、漢文表現が日本語にもたらした精華を理解して、文語文・漢文を味読する能力
6. 上記の知見と判断力・表現力の醸成の上に、卒業論文を執筆し、客観的で着実な原典解読に基づいて、独自の見解を主体的に主張し、しかもそれが独善に陥らないような対話性・協働性

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科は、ディプロマ・ポリシーに沿って、国文学（日本文学）・国語学（日本語学）・漢文学の三分野を偏りなく学ぶことにより、日本の言語文化の精髓に達し得るように、原典資料の精密な読解を重視し、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 江戸期以前の原典資料が精確に読解できるような導入・指導を行ない、併せて、そのために必要な背景の文学史・国語史の知識を与える。
2. 江戸期以降の板本や、近代・現代の多種のメディアについての指導を行ない、各時代の言語表現との相関について、的確な判断力を養う。
3. 上代から現代に至る各時代の言語作品の歴史とそれぞれの特質を、原典資料に基づいて理解させ、主要な学説・論争について、根拠を以て論じ得る力を養う。
4. 各時代の日本語の音韻・文法特徴を、具体的な言語作品に基づいて調査する方法を修得させ、その調査に基づき独自の見解が発表できるように指導する。
5. 漢文訓読の技術を身に付けさせ、漢文訓読の歴史について指導した上で、漢文表現が日本語にもたらした精華を紹介して、文語文・漢文を味読させる。
6. 上記の知見と判断力・表現力の醸成の上に、卒業論文を課し、客観的で着実な原典読解に基づいて独自の見解を主体的に主張させ、それが独善に陥らないための対話性・協働性を、論文指導の過程で養う。

〔アドミッション・ポリシー〕

日本の伝統的な言語文化と日本語の特質を理解するために、文語や漢文訓読も含んだ日本語の豊かな言語作品を、国文学・国語学・漢文学の領域で広く深く学ぶ意欲を持ち、そのための基礎的な読解力を備えている学生を受け入れます。

1. 古代から現代に至る日本の文学作品に関心があり、それぞれの原典資料を、より深く、より綿密に判断して読み解く力を更に伸ばし、自らの主体的な新しい読み方を発見し、それを他との対話の中で磨いて行くことに意欲がある。
2. 古代から現代に至るまで一貫して「国語」であり続けた日本語の仕組みを、時に他国語との対照も交えながら、主体的に解明して行くことに意欲がある。
3. 日本語・日本文学の歴史で、常に基盤の一つであった漢文体に関心があり、漢文体の作品を味わう力を、更に伸ばすことに意欲がある。

英文学科

〔教育研究上の目的〕

英米の文学、思想、文化の知見を広めるとともに、体系的かつ批判的な視点から問題を見つけ、調査・分析によって得た結果を日英両言語で論理的に伝達する能力を身につけること

〔人材養成の目的〕

言語、文化、思想、歴史、社会の深い理解に基づく見識と高度なコミュニケーション能力を用い、国際社会において現実に起こりうる未知の諸問題に対処できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、人間の営為に必然的に付随する意味の多義性、曖昧さを読み解くためのリテラシーを獲得する人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定

めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 知的訓練を体系的に積み重ねることによって、社会のさまざまな側面で遭遇する現実的な課題に対し、自らの置かれた立場を見失うことなく対処する能力
2. 文化の多様性、異文化理解といった概念を、社会の表層を上滑りする言説としてではなく、自らの言葉で再構築、再解釈する必要性を認識するために不可欠な読解力、思考力、想像力、表現力
3. 言語芸術に限らず、あらゆる学問にとって必須の言語運用能力が高まり、日本語と英語では現実の表象の仕方が異なることが理解でき、発信・受信の双方向において言語表現の多様性への感受性
4. 言語の有用的側面の先に存在する、学問という知的営為がもたらす豊かさの重要性を実感する能力
5. 日英両語における高水準の言語能力および英語圏の言語、文学、歴史、文化に関する系統的な専門知識を修得し、それを実社会での生活や仕事に活用する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、言語の社会的側面と言語芸術としての側面の両者に重点を置くことで、リテラシー獲得のための相乗効果が得られるよう、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 4年間の学修過程のなかで、3つに大別された専門領域コースのいずれかを選択し、それぞれの領域に必要な専門的知識を順を追って体系的に学ぶことにより、系統的な知識の獲得、理解、応用の実現を可能にする。
2. 知識の享受、個人での読解、学生相互間での議論、他者に向けてのプレゼンテーション、教員との双方向的な意見交換といった多様な知的訓練を織り交ぜることで、理論と実践両面における汎用的な言語表現能力を体得させる。
3. 4年間にわたり、自習も含めた自立的、主体的な学修に裏打ちされたスキル・クラスを通して英語の高度なリテラシーを獲得すると同時に、その学修過程を、日本語という第一言語についての知識と運用能力を意識的に捉え直す契機とする。
4. 英語という他者の言語で書かれた他者の体験についてのテキストを精読することで、言語の意味作用の多義性に意識的になるようにする。
5. 系統的に修得された英語圏の言語、文化、歴史に関する知識の活用として、英語教員や翻訳家などの専門職養成科目を配置する。
6. 修得した専門分野の知識力、言語力、思考力の集大成として、日本語ないし英語で独創的かつ論理的な卒業論文を作成させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、言葉というものの全般に興味があり、特定の言語のもつ社会的な意味作用や、言語表現としてのテキストの読解、分析に関心がある学生を受け入れます。

1. 英語の修得が必要である理由を、国際共通語であるからという点のみに求めてしまうのではなく、国際共通語としての英語をとりまく負の要素も視野に入れたのち、それでもなお英語を学ぶ意味はどこにあるのかを考えることができる。
2. 言語こそが人間の営為の根幹を形作っていることを理解し、その人間の言語活動の重要な一角を成している文学に、一定以上の関心がある。
3. 他者を知るということは自己を知ることと連動しており、そのための媒介となるのが言葉であり、また言語表現としてのテキストであることを認識したうえで、そのテキストを読み解くための一定以上の英語運用能力を有している。

ドイツ文学科

〔教育研究上の目的〕

総合的なドイツ語運用能力を習得し、古典から現代にいたるドイツ語圏の文学、思想、美術、音楽などを歴史的・文化的文脈のなかで考察する能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

ドイツ語圏の文学・文化を広い視野において考察することを通じて、複眼的な視点、柔軟な判断力、高度な言語表現能力をもつ人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、ドイツ語の学修とドイツ語圏を中心とする欧米の文学・文化の研究によって、以下の資質を備えた人材の養成を目的としており、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たした学生には、学位を授与します。

1. 総合的なドイツ語技能（読む・聞く・話す・書く）を修得することで、ドイツ語話者との共感に基づく高度なコミュニケーションを、日常会話から学問的議論まで様々なレベルにおいて実現する能力
2. 文学及び美術や音楽等、諸芸術の研究・享受により育まれた豊かな想像力と論理的創造的思考力をもって、古今の多種多様なテキストの意味内容を的確に把握する能力
3. 様々な時代や地域、文化現象における問題点、研究テーマを自ら発見し、分析的に考察する能力。またそれによって得た知識や見解をドイツ語ないし日本語で明晰に表現する能力
4. ドイツ語と英語の学修によって獲得された「複言語主義」的視点において、世界の多様さと豊穡さを認識し、多角的な視座から人間の来し方行く末を洞察する能力
5. 自国とは異種思想・文化を歴史的社会的背景もろとも理解することで、他者に向かって開かれた精神性を身につけ、ドイツ語圏文化に関する広範かつ深い理解に基づいて、自国と欧米諸国との相互理解、文化交流に貢献する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、異文化間交流に寄与する資質と能力を開発・促進するため、ドイツ語の学修及びドイツ語圏文化の研究を軸に、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 1・2年次では、総合的実践的なドイツ語能力（会話・読解・作文）を短期間で確実に体得できるように、日本人とネイティブ教員が連携して実施する小人数の語学授業に能動的に参与させる。
2. 初年次においては、ドイツ語圏の言語・歴史・芸術に関する概括的な知識、文化研究の方法論を修得し、さらに人文科学研究における問題意識を培うための科目群を配置する。
3. 3・4年次では、ドイツ語圏の文学、諸芸術を主題とする多様な講義・演習、上級レベルのドイツ語科目を通じて学識を深化させると共に、批判的分析能力、総合的判断能力、実践的コミュニケーション力を養う。
4. 4年次には、在学中に修得した文化研究の手法及び知識の集大成として、また優れて学問的な論理構成力を身につけられるよう、教員の個別指導の下、日本語ないしドイツ語での卒業論文を作成させる。
5. 日独比較文化研究、文学部横断プログラム、他学部他学科開講科目の履修、またドイツ語圏大学への留学を通じて、自他の歴史や社会、文化に対する俯瞰的な視野の獲得と、より深い相互

的理解の実現を図る。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科は、上智大学の建学の精神についての十全な理解に加えて、以下のような資質を持った学生を受け入れます。

1. ドイツ語圏の文学、芸術、思想、歴史等々に大きな関心を持ち、それらの学修に不可欠のドイツ語能力を確実に体得するため、日々の地道な努力を厭わず、自発的・持続的に勉学に取り組むことができる。
2. 異文化に関する新しい知識や体験を求めようとする知的好奇心が旺盛で、自由で柔軟な精神を有し、加えて高度に学問的な内容の文章を読み書きするのに必要な論理的思考能力と豊かな言語表現力を持っている。
3. 現代世界のありようを多角的に捉えることのできる視点、そして自己とは異質な文化を育んできた「他者」に対する想像力と寛容の精神、畏敬の念をもって、自国とドイツ語文化圏の相互的理解と協力関係の深化に貢献しようという強い意欲を有する。

フランス文学科

〔教育研究上の目的〕

読む・書く・聞く・話すという4つのフランス語運用能力を総合的に習得させるとともに、文学を中心に、フランス文化に関する深い教養を身につけさせること

〔人材養成の目的〕

高度なフランス語運用能力とフランス文化に関する教養を備え、複眼的思考と異質なものへの寛容さを身につけた、国際的な場でも活躍できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、フランス語の修得、及びフランス語圏の文学を中心に、様々な文化・社会事象の学習を通じて、複眼的思考や批判的精神や創造性を備えた人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 文学や芸術・文化に対する関心と理解力
2. 仕事や研究や社会貢献に役立つフランス語運用能力
3. 情報や知識を能動的に獲得し、それを客観的かつ多角的に分析する思考力
4. 自分の意見や研究の成果を、口頭や文書で的確に構成する力と、わかりやすく伝える表現力
5. 自発的に課題を見出し、解決してゆくための総合的な力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、入学から卒業まで、専任教員が継続的に学生の知的成長に寄り添い、ひとりひとりの個性を尊重しながらその能力を伸ばしてゆくことができるよう、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 1・2年次のフランス語教育においては、小人数のクラス編成により、読む・聞く・書く・話す能力をバランスよく養成する。また人文学研究に必要な知識や方法論と、口頭発表や論文作

成に必要な技術やアカデミック・リテラシーを身につけさせる。

2. 3・4年次には、文学テキストの精読や文学研究に加え、高度な実践的フランス語運用能力を修得するための科目や、美術、舞台芸術、映画、思想、社会など、様々な領域に関わる科目を開講し、個々の学生が自らの関心に応じて、文化・社会事象を探究できる力を養成する。
3. 卒業論文を必修科目として、4年間に修得したあらゆる知識や分析力を総合的に活用させる。
4. 4年間の学習における教育目標の一貫性、および教育プログラムの継続性と発展性を重視する。またいずれの段階においても、一方的な知識伝達に終始することなく、学生の資料収集能力や読解力、表現力、協調性をのばすための実践的な教育を重視する。
5. 高度なフランス語力とフランス及びフランス語圏の文化や社会に関する知識を身に付け、英語・日本語以外の言語による情報の収集と発信、及び異文化社会間の相互理解や協力関係の深まりに寄与する人材を育成する。

〔アドミッション・ポリシー〕

ひとりひとりがフランス語の修得と、フランス語圏の文学をはじめとする文化事象の学習を通して人間に対する理解を深め、他者との平和的共存をはかりつつ自己の個性を高めてゆくことを期待する本学科は、以下のような学生を受け入れます。

1. フランス語やフランス語圏の文学・文化を学び、柔軟かつ論理的な思考力を養い、自己とは異なるものを理解することに興味や意欲がある。
2. 人文学に関する講義を聞いたり、芸術作品を鑑賞したり、書物や論文を読んでその要点をまとめたり、自分の考察を口頭や文書で発表するために必要な常識と、言語能力とを備えている。
3. 自発的、主体的に考え、学ぶことができると同時に、他者との対話や共同作業を通じて学びあうことの意義を認識している。

新聞学科（SPSFは別添参照）

〔教育研究上の目的〕

ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション全般を対象に、その社会的役割や機能、影響過程など、報道やメディアに関わる諸問題を幅広く考察すること

〔人材養成の目的〕

社会人に必要なコミュニケーションに関する教養を備え、高度なコミュニケーション能力とメディア・リテラシーを身につけた人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、情報といった諸領域を対象としたこれまでの学問的蓄積と、それらを踏まえた実践的な調査能力、分析力、批判力、構成力、表現能力
2. 「理論と実践」の両面からバランスよく学び、ジャーナリズムの現場やメディア・コミュニケーション、情報などを扱う分野で活躍するための能力
3. 情報化が進む現代社会を、よりよく生きるための高度なコミュニケーション能力とメディアリテラシー

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、情報に関する諸領域を、理論的アプローチ、メディア別のアプローチ、国際的なアプローチ、現実的な諸問題の分析アプローチから学ばせる。
2. 上記カリキュラムと並行して、その表現力、検証力、批判力などの能力の向上に向けた実践的アプローチもバランスよく扱うことで、「理論に偏せず、実践にも偏らない幅広い教育」を実現する。
3. 全ての学生が、専任教員が担当する個別の演習を履修し、小人数教育のなかで、批判的な見方や研究・分析の能力、倫理を醸成する。
4. 4年間で修得した知識、分析力、技能の集大成として、専任教員の個別指導の下で卒業論文を課す。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、以下のような学生を受け入れます。

1. 情報化が進む現代社会において、ジャーナリズムやメディア・コミュニケーションの諸領域に積極的な関心を持ち、それを深く学び、考える意欲がある。
2. 現代社会に対する問題関心を突き詰める姿勢と、それらの問題について批判的に検証する論理的な思考力、判断力がある。
3. 自らの問題関心に基づいた調査研究の成果を表現する能力、説明する対話力がある。

3. 総合人間科学部

〔教育研究上の目的〕

ヒューマン・サイエンス、ポリシー・マネジメント、ヒューマン・ケアの三つの知を柱とする科学的思考を養うとともに理論・実践・臨床に関する学際的教育・研究を行うこと

〔人材養成の目的〕

人間の尊厳を重視する精神を育み、人間支援の実践・臨床、運営に関するデザイン・政策形成に貢献し、全人的教養教育に根ざした人間の尊厳実現に貢献できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 人間の尊厳を重視する態度と人間や社会に関する幅広い教養を有し、国際的な観点から総合的かつ多角的に人間や社会が直面する諸問題を理解する能力
2. それらの問題を適切な科学的方法を用いて分析し、他の専門領域の人々とも積極的に協働しながら、解決に向けて取り組む能力
3. 変化し続ける社会の中で、常に問題意識を持ち、自己研鑽に励み、人格的成長を目指す力。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、その専門性に応じて次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 1・2年次では、基礎科目群や他学科の専門科目の履修を通して、人間の尊厳とは何か、それを実現するためにはどんな知識や能力が必要かを幅広く学ばせる。
2. 3年次になると演習や学内外の実習を中心として少人数教育が提供され、学生は思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけさせるとともに、問題解決に必要な方法論（理論や研究法など）を実践を通して学ばせる。
3. 4年次では、自らが問題を設定し、解決のためのデータを収集し、そのデータに基づいて分析し、そしてその成果を発表する場を提供する。

〔アドミッション・ポリシー〕

人間の尊厳とは何かを理解しその実現に向けて、教育、医療、福祉、さらには日々の生活の中で実践できる人材の養成を目指している総合人間科学部では、以下のような学生を受け入れています。

1. 個人や社会、さらには諸外国で起きている人間の尊厳に関わるさまざまな事象に対して強い関心を持っている。
2. それらの事象を論理的かつ客観的に分析し表現するために必要な基礎的な知識と能力を持っている。
3. コミュニケーション能力を高め、他の専門領域の人々とも積極的に協働することができる。
4. 困難な状況にある個人や地域社会を支援し、国際社会の発展に貢献したいという意欲に満ちている。

教育学科（SPSFは別添参照）

〔教育研究上の目的〕

人間と教育をめぐる諸問題を教育学的観点から総合的・多角的に考究し、人間尊重の教育を実現する力を養うこと

〔人材養成の目的〕

人間の尊厳を基底に置く、人間性と専門性に優れた教員や研究者を養成するとともに、国際社会でも活躍できる自立性と教育学的教養を備えた人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 教育学と関連する諸学に関する幅広い知識を身につけ、国内外の人間と教育を巡る諸問題を教育学的に考察するとはどういうことかが理解できると共に、人間尊重の教育に関する豊かな実践的イメージを持つ能力
2. 国内外の学校・社会・家庭・企業などで行われている教育的営みと、そこで生じる現象や問題について、哲学・歴史学・社会学・心理学などの知識と方法を用いて教育学的に読み解くと共に、人間尊重の教育を実現する筋道について総合的・多角的に考究し、自らの考えを的確に表現する能力
3. 人間の尊厳を基底に置き、国際的な視野を携えて、教育に関わる問題解決や人間尊重の教育の実現に向け、多様な他者と主体的・友好的に協働し、絶えざる自己省察を繰り返しながら粘り強く取り組む能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 総合人間科学部の他学科と同様に「全学共通科目」、「語学科目」、「学科科目」（学部共通科目、学科専門科目）で構成され、広い教養と深い専門性の調和的実現を目指す。
2. 広範な教育学の諸領域を構造的に把握し、その独自の学問性を体系的に身につけられるよう、「基礎的領域」（教育哲学、日本教育史、外国教育史、教育社会学、教育行政学など）、「実践的領域」（学校教育学、学校臨床社会学、教育方法学、社会教育計画論など）、「国際的領域」（国際教育学、比較教育学、国際教育開発学など）の3領域で編成する。なお、「国際的領域」では英語による科目も開講する。
3. 1年次前期に、教育学基礎演習を必修科目として履修し、大学での学びを進める上で求められる基本的な事項やスキルを習得させる。1・2年次では各概論を必修及び選択必修として履修し、基礎的な事項や視点、方法論を学ばせる。3年次前期には、1・2年次の学びを基盤にゼミ（演習）を選択し、各専門の立場から人間と教育を巡る問題へのアプローチと、そのために必要な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけさせる。3年次後期には、ゼミを中心的な場としてさらに専門性を深めると共に、一人ひとりが独自に探究する課題を定め、取り組むことで、事象を教育学的に読み解き問題解決の筋道を模索する能力、人間の尊厳を希求する態度、国際的な視野などを育む。4年次には、卒業論文の作成に取り組むことを通して、人間尊重の教育を実現する筋道について総合的・多角的に考究し、自らの考えを的確に表現できるようになると共に、絶えざる自己省察を繰り返しながら問題解決に粘り強く取り組む資質・能力を身につけさせる。
4. 3領域で構成された立体的な学びを通して教育学を体系的に身につけると共に、各自の問題関

心や将来展望に即して、他学部・他学科科目を含めた関連する多様な科目群からの履修が可能となっている。また、その際、国際的な視野を身につける基礎的能力の涵養に配慮し、英語による開講科目を数多くリストアップしている。

5. より主体的・対話的な深い学びを実現すべく、学習方法にも工夫を施している。講義ではリアクションペーパーへの記入を求め、次時に教員がコメントしたり、整理された多様な意見について、さらに学生同士で議論したりする。ゼミでは個人やグループでの発表と討議が基本となるが、さらに国内外の他大学のゼミとの交流活動や、海外も含めたフィールドワークを行うこともある。卒業論文の最終審査は公開での発表会としており、多くの聴衆を前に効果的なプレゼンテーションを工夫する場としている。
6. 一人ひとりの学習の成果や状況について、より多面的できめの細かな評価を実現すべく、学期末試験に加えて、授業中のリアクションペーパーやワークシート、議論やグループワークへの参加・貢献状況の見とり、学期の途中でのレポート提出や試験の実施など、様々な評価指標・評価方法を組み合わせた評価を行っている。
7. 人間尊重の教育に関する実践的イメージを持つ能力や、国際的視野を携えて多様な他者と協働し、粘り強く取り組む能力の滋養を図るために、インターンシップ科目を選択科目として充当する。

〔アドミッション・ポリシー〕

人間と教育をめぐる諸問題に関心を持ち、それらの問題を柔軟かつ複眼的に思考することのできる学生を受け入れます。また、国際社会や異文化に対して広い関心を有する探究心の旺盛な学生を求めています。

1. 人間と教育をめぐる諸問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を抱く学生を求めています。その際、国際社会や異文化に対して広く関心を有する探究心の旺盛な学生を特に歓迎します。
2. 学習の基礎力として、どの入試種別においても、日本語を用いて論理的に思考し、表現する能力と、英語による基礎的なコミュニケーション能力を要求しています。その上で、自らの考えを率直に表現できると共に、広く寛容な姿勢で他者の考えを受け入れ、柔軟に発想し、複眼的に思考することのできる学生を求めています。
3. さまざまな個性や多様な文化的背景を有する学生を歓迎します。また、特別入試では、新聞等で報道される時事問題の水準において、教育に関わる諸問題への関心や理解、それらに対して自分なりの考えを形成し表現する基礎的能力を備えた学生を受け入れます。

心理学

〔教育研究上の目的〕

人間の「心」に関する科学的アプローチを通じて、人間がよりよく生きるために必要な、自らの心的に的確に把握し、他者の心の動きを冷静にしかし暖かなまなざしをもって見つめる視点を養うこと

〔人材養成の目的〕

時代が求める「心」を探求する力を涵養し、人の「心」をとらえるための総合的視野を持つ人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 心理学の考え方や理論を理解し、自分の言葉で説明する能力
2. 心理学のさまざまな研究法、技法について、実践を通して理解する能力
3. 協働的な学びを通して、コミュニケーション・スキルを修得し、心理学についての理解を深める能力
4. 卒業研究を通して、自らテーマを設定し、ふさわしい方法で研究を進め、分析し、結果をまとめて考察を書く能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 心理学の知識を幅広く身につけさせるために、心理学の基礎から、心理学の専門領域ごとの講義科目、特殊講義科目を配置する。
2. 心理学のさまざまな研究法、技法を修得させるために、1年次に基本を学び、学年が上がるごとに徐々に高度な研究法についての科目を配置する。
3. 協働的な学びを通して、コミュニケーション・スキルを修得させ、心理学についての理解を深めていくために、演習を中心とした科目を1年次から継続的に配置する。
4. 卒業研究に関する科目を履修して、卒業論文をまとめる。

〔アドミッション・ポリシー〕

他者に対する温かな関心と人間の尊厳を尊重する姿勢を持ち、次のような素養を持つ学生を求めています。

1. 身の回りで起きていることに対して好奇心を持ち、自ら調べ、学んでいこうとする意欲のある学生、さらに、物事を多角的な視点から柔軟に眺めようとする意欲のある学生。
2. 先行する多くの文献を臆することなく読み進めることのできる学生、さらに、さまざまな領域の人々と協働的に学ぶことのできる学生。
3. 物事を論理的かつ客観的に分析し、文章にまとめたり口頭で発表したりすることのできる学生。

社会学科（SPSFは別添参照）

〔教育研究上の目的〕

社会に関する問題関心を養い、社会現象に社会学的視点からアプローチし、実証的な方法を用いて分析し、そのメカニズムを理解する能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

社会学的な思考法と方法論を習得し、実践的な場面で、国際的な視野と人道的な立場から問題解決について提言できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、次のような能力をもつ人材を養成することを目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒

業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 社会について様々な問題関心をもち、社会現象の理解に社会学的視点をもってアプローチできる能力
2. 基礎的な理論と実証的な方法を用い、社会現象のメカニズムについて理解と分析をする能力
3. 現代社会の諸領域の特徴を社会構造と社会変動との関連の中で把握する能力
4. 多様な他者を理解し、他者と共存する社会の形成に向けて、社会学的な視点を活かした問題解決が提言できる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 基本的な社会学的視点と、問題関心を社会学的に設定する方法について、少人数の演習によって修得させる。
2. 社会学の基幹となる「理論と方法」について、社会学理論によって論理的思考法、問題意識の概念化・モデル化を理解し、社会調査法による質的調査および量的調査の技術を修得させ、社会現象の分析能力を養う。
3. 身につけた理論と方法を現代社会の特定領域に応用して、その構造と変容の理解を深める。
4. 各自の問題意識にもとづいて研究課題を設定し、人間の尊厳を重視したグローバルな視野から、高度な社会学的な分析と考察ができる力を養成する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科は、学位授与に向けた人材養成の目的を達成するため、以下のような意欲や関心を持つ学生の受け入れを希望します。

1. 社会や文化と個人との多様な関係を深く理解するため、政治・経済・歴史など社会の広い領域への関心を持つこと。
2. 論理的な思考力とコミュニケーションへの積極的な姿勢を持ち、さらにそれを鍛えて、他者や社会に対する豊かな想像力を育みたいという強い意欲を持つこと。
3. 社会のメンバーが相互に理解しあい、その誰もが尊重される公正な社会の実現に向けて、自分なりの方法で貢献していきたいという将来構想を持つこと。

社会福祉学科

〔教育研究上の目的〕

人間の尊厳が実現される社会を構築するための、新しい福祉社会を構想し、それを実現するための政策・運営管理を行う能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

新しい福祉のあり方を福祉の実践現場、地域社会、行政で実現するために、その指導的役割を担うことができる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、福祉社会の実現に貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけてい

るべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 社会福祉学の基本的概念と価値観を学んで得た人間の尊厳を重視する精神・態度
2. 幅広い視点を持ち、他者や社会の理解を深め、社会福祉のさまざまな分野についての構想を持つ能力
3. 社会福祉の政策・運営管理についての知識と技能を取得し、駆使する能力
4. 社会福祉の臨床についての知識と技能を取得し、駆使する能力
5. 高いレベルのコミュニケーション・スキルと、専門的知識および実践能力を身につけ、社会福祉の現場などで活用する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 必修科目群および基礎科目群により、社会福祉の基本的概念と価値観を修得させる。
2. 社会福祉分野科目群により、幅広い視点から、他者や社会の理解を深める。
3. 福祉政策運営管理科目群により、社会福祉の政策・運営管理について学び、関連した知識と技能を修得させる。
4. 福祉臨床科目群により、社会福祉の臨床について学ばせ、関連した知識と技能を修得させる。
5. 演習・実習科目群および社会福祉アドバンス科目群では、少人数のディスカッションやグループ学習により、コミュニケーション・スキルや、専門的知識・実践能力を身につけさせる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、以下のような学生を受け入れたいと考えています。

1. 人間の尊厳に深い関心を持ち、社会の発展や世界・地域に貢献するために主体的かつ自発的に学ぶ意欲がある学生を求めています。
2. 社会や福祉についての基本的な知識、新しい福祉社会について自由に考えることができる柔軟性と、他者とコミュニケーションをとりながら問題解決を図ることができる技能を求めています。
3. 卒業後は、社会福祉の実践現場はもとより行政機関や産業界を含む、さまざまな場面で活躍し、新しい福祉社会を政策的・運営的にデザインし創造していくためにリーダーシップを発揮していくことを期待しています。

看護学科

〔教育研究上の目的〕

総合的教養教育と専門職業教育の融合（プラクティカル・リベラルアート）という視点にたって、基本的看護実践力、自己学習推進力、ヒューマンケアリングの実践と人格と叡智の涵養に資する研究、教育を行うこと

〔人材養成の目的〕

多様な分野で貢献できる人材の養成を目指し、ヒューマンケアに関する理論・実践・研究を発展させ、他領域の知見・学術を学び、政策・サービスマネジメントなどを含めて広い視点に立脚した、

リーダーシップを内外で発揮しうる看護人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、総合的教養教育と職業専門教育を融合した新たな看護教育（プラクティカル・リベラル）をおこなうことによって、基本的看護実践力、自己学習推進力、ヒューマンケアリングの実践とともに人格と叡智の涵養に努め、広く社会への視点を有し、人間の尊厳を基底にした、深い教養と研究・実践力を備えた人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 幅広い教養を身につけることによって、看護学を俯瞰的に捉え、社会に期待される新たな責務と役割を考える能力
2. 看護専門職としての必要な知識と技術を修得し、自らの手を通してヒューマンケアリングを実践する能力
3. 人間の尊厳について深い視座をもち、どのような状況にあっても相手の価値観を尊重し、共感的理解をもって接する能力
4. クリティカルシンキング力を備え、変化する社会と人々の健康問題を的確に捉え、対象にとって最善のケアの方向性を考える能力
5. 進歩する医療のただなかで、常に目的意識と目標を持ち、それにむけて専門職業人としての能力的、人格的成長をめざし自己学習を推進する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、キャリア形成に資する科目を履修し、ヒューマンケアに関する理論・実践・研究を発展させ、他領域の知見を学び、政策・サービスマネジメントなどを含めて看護をめぐる諸問題に対応しうる研究・実践力を備え、国際社会でも活躍できる資質を形成するよう、次のカリキュラムを編成しています。

1. 全学共通科目では、キリスト教人間学、外国語科目と、すべての学問領域を横断的に俯瞰できるような教養科目を履修させ、本学学生としての基本的姿勢を身につけさせ、看護を大局的に考えていく上での基礎を形成する。
2. 学部共通科目では、総合人間科学入門の他、総合人間科学部の他の4学科の専門科目を履修させ、人間の尊厳についてのさまざまなアプローチを学ばせ、人間理解を深める。
3. 1、2年次には、看護基礎科目を配置し、クリティカルシンキング力を育成しながら、健康と環境への看護的視点を養い、看護の基本となる知識、技術を育成する。
4. 3年次では、看護専門科目のうち「人間の発達と看護」、「人間の健康と看護」に関する専門的知識群および実習を配置し、専門職としての能力と技術を修得させる。あわせてケアリング、看護倫理等の科目を配置し、ヒューマンケアリングの実践に向けた基礎力・実践力を培う。
5. 4年次では、看護専門科目のうち「場に応じた看護」に関する科目と看護管理に関する科目を配置し、より深く看護の専門性を深めると同時に、自立的な学習姿勢を養う。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科の設置の目的を理解し、人間と社会をめぐる諸問題に関心を持ち、それらの問題を柔軟かつ複眼的に思考することのできる学生を受け入れます。また、幅広く深い学術への関心を持ち、科学の知、臨床の知、政策・運営の知を積極的に学ぶ姿勢を有し、ひとびとの健康と福祉に多様な形で貢献し、従来の職業看護教育を超えた看護の発展に寄与しようとする探究心の旺盛な学生を求めています。

1. 幅広く深い学術への関心を持ち、科学の知、臨床の知、政策・運営の知を積極的に学ぶ姿勢を有している学生を受け入れます。

2. 健康に関する諸問題に関心を持ち、それらの問題をさまざまな視点から考えることのできる学生を受けれます。
3. 人々の健康と福祉に多様な形で貢献する明確な意志を持った学生を受け入れます。
4. 看護学の発展に寄与しようとする探究心の旺盛な学生を受け入れます。

4. 法学部

〔教育研究上の目的〕

法律学及びその関連科目を広く学ぶことを通じて、社会に生起するさまざまな問題について法的に考える力を養うこと

〔人材養成の目的〕

現代社会に対応できるような法的思考能力や問題分析能力を有し、かつ国内だけでなく国際社会でも活躍できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部では、法的な基本知識や思考枠組とともに、広い視野と柔軟な思考をもって、主体的に問題の分析や解決にあたるような能力を修得した人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を各学科で定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 法的な基本知識や思考枠組を修得し、広い視野と柔軟な思考をもって問題の分析や解決にあたることのできるよう、法律基本科目を基礎に置きながら、その発展的・先端的な法律科目を配置するとともに、政治学・経済学・国際関係論といった隣接科目を揃え、学科横断的に学ぶ。
2. 問題意識と学問的な関心をもって、より主体的に、かつ、掘り下げた議論ができるよう、少人数制のゼミナール形式の演習を設ける。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学部では、大学入学前までに身に付けておくべき学力を有することを前提として、国内外を問わず、現代社会に生起する問題や紛争、地球規模の環境問題などに関心を抱き、それを法学・政治学的な観点に照らしつつ、客観的かつ柔軟に考察し、みずからの意見を主張するとともに、相手の意見に耳を傾けられるような学生を求めています。

法律学科

〔教育研究上の目的〕

法的判断枠組みの基本構造、実社会と法制度の関わりを重点的に学び、法律学の基礎的素養である問題解決能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

法律学に特有の利益調整方法や問題の発見方法を習得し、これを活用しうるような法的思考能力を備えた人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、法の支配と公正な社会の更なる実現に向けて、次のような能力を修得した人材の養成を

目的に、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 社会におけるさまざまな問題を法的観点から総合的・多角的に検討する能力
2. 社会におけるさまざまな問題の法的な解決に資する提言をする能力
3. 法的な思考枠組を現実のさまざまな問題に応用する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科は、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 法的な思考枠組を体得し、社会の問題を当該枠組を用いて検討する力を養うために、法律学の基本をなす憲法・民法・刑法をはじめとする実定法（法律基本科目）の講義を必修科目として配置する。
2. 問題の法的解決に資する力を養い高めるために、法律基本科目のみならず広くその他の実定法科目・基礎法学科目・隣接科目の講義を、選択必修科目または選択科目として配置する。
3. 法的な思考枠組を社会に生起する様々な問題に応用する力を養うために、少人数の演習を4年次の必修科目として（意欲ある学生のためには3年次以上での選択科目としても）配置する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、社会に現実として存在する紛争や問題の法的な解決に資する思考力・構想力（いわゆるリーガル・マインド）を養成します。そのため以下の学生を受け入れます。

1. 社会と人間への高い関心を有する学生
2. 社会科学一般への柔軟かつ広い興味や国際問題への関心を有する学生
3. 高校までの学習により、上記関心を持つのみならず柔軟な思考のできる学生

国際関係法学科

〔教育研究上の目的〕

法学・政治学を基礎とした国際関係の分析力とともに、国際舞台で不可欠な語学力や幅広い教養を身につけさせること

〔人材養成の目的〕

国連職員や外交官、その他一般企業において国際性ある職域をめざす者、国際的、渉外的な法律実務を考える者、さらに活発化する国際学術交流に貢献する研究者を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、人権の普遍性及び各国主権の平等並びに地域多様性を尊重する国際社会の構築に向けて、次のような能力を修得した人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 国際社会の諸問題に対して幅広い関心を持ち、それらを考察するうえで必要な知識を自力で探査・獲得する能力
2. 国際社会の諸問題について法的及び政治学的思考力を基礎とした分析する能力
3. 世界における各地域の特殊性を理解し、異なる法文化及び政治文化を背景とした諸々の規範に

適応する能力

4. 国際的な舞台で、最先端の法的及び政治学的知識を活用しながらみずからの考えを的確に伝達する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科は、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 法学及び政治学のリテラシーを身につけ、与えられた問題を法的及び政治学的に設定し考察するための基礎的な方法論を修得させる。
2. 国際社会の諸問題を考察するうえで足がかりとなる国内法及び国内政治の理論並びに国際関係法及び国際政治学の理論を体系的に学習させ、理解を深める。
3. 少人数の演習形式の授業の中で、身につけた理論と方法を国際社会の具体的な問題に応用し、その解決に向けた提言を模索する。
4. 各自の問題意識に基づいて設定した課題に係る研究の成果を、国際的な舞台で発信できる力を養成する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、教員と学生が一緒になって、法学および政治学を基礎とした国際関係の分析を行い、解決に向けた提言を模索していきます。そのために、次のような特質を持つ学生を求めています。

1. 国際社会に生起する外交、安全保障、紛争、難民、商取引、婚姻などの諸問題について関心を持つ学生
2. 世界のさまざまな地域における社会のあり方を、偏見を抱くことなく観察し、分析することができる学生
3. 国際舞台で活躍する人材に成長するための基礎になるような一定の語学力を持つ学生

地球環境法学科

〔教育研究上の目的〕

環境問題にかかわる世界と日本の法システムに関する素養を身につけ、環境問題を法的観点から総合的・多角的に検討する能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

環境法研究者、企業活動に係る環境法のエキスパート、環境法の知見を有する実務家や環境NGOで活躍しうる人材、環境法の専門家として母国で活躍できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、地球環境に配慮した持続可能な社会の実現に向けて、次のような資質・能力を修得した人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 法的な観点から環境問題を検討するため、日本の法制度に関する基本的な素養と問題解決のための思考枠組を修得し、現実の環境問題にそれを応用する能力
2. 個別の環境問題について発展しつつある日本の法制度の特徴を理解し、それぞれの問題領域の特殊性もふまえながら、適切な問題解決のあり方について考える能力

3. 環境問題に関する外国や国際社会の法制度を学び、よりグローバルな視野から問題を考える能力
4. 法学に限定されない学際的な視野から、環境問題の解決に資する今後の政策のあり方を考える能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科は、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 日本法に対する素養や思考枠組を養うため、憲法、民法といった法律基本科目について、特に基本的な講義を必修科目として提供するとともに、学生のニーズに応じて選択可能な講義を幅広く配置する。
2. 法学の知見や思考枠組を様々な環境問題に応用して考える力を養うため、日本の環境法に関わる基本的な講義を必修科目として提供するとともに、個別の環境法制度に関わる講義等を選択必修科目・選択科目として配置する。
3. 国際的な視野から発展的に問題を考える力を養うため、外国や国際社会における環境法等に関わる講義を選択必修科目・選択科目として配置する。
4. 適切な環境法政策のあり方をさらに学際的に考えるための視点を養うため、政治学、社会学等の隣接科目に関わる講義を、選択必修科目・選択科目として配置する。
5. 関連科目の理解を深めると同時に、討論・論述等の能力の向上を図り、現実の問題解決に資する思考力と発信力を養うため、1年次の導入的な科目として、また4年次の必修科目（3年次も履修可）として、少人数の演習を配置する。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科では、主に法学と政治学の観点から、日本や世界が直面している環境問題への取り組みに資する能力を養成します。そのため以下のような特質を有する学生を求めています。

1. 環境問題に関わる人間や社会のあり方に対して、高い関心を有する学生
2. 海外事情・国際情勢に対する幅広い関心と一定の語学力を備え、グローバル化する環境問題にも対応しうる学生
3. 社会科学一般を中心に柔軟かつ広範な関心を有する学生

5. 経済学部

〔教育研究上の目的〕

経済学と経営学及びその関連科目の幅広い学習を通じて、現代社会における経済的活動と社会的問題について論理的に考える力を養うこと

〔人材養成の目的〕

グローバル社会に即した感覚と社会的責任や倫理を備え、経済学と経営学の幅広い基礎的知識と専門的知識を基盤とする高度な問題解決能力を有し、国内外で活躍できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

キリスト教ヒューマニズムの精神を基盤とし、「広い視野と先見性を持ち、国際的なリーダーとなる人材を育成する」という学部教育理念のもと、21世紀の高度な知識基盤型の社会においてリーダーとして活躍し、国際社会に貢献できる人材の養成を目的として、本学部は学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 経済学と経営学の基礎および専門知識
2. 情報処理能力、コミュニケーション・スキル、問題解決能力
3. 早期卒業においては、高い問題意識と自己管理能力を持ち、早期に社会において活躍する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、「叡智が世界をつなぐ」という大学ミッションと学部教育理念のもと、クラスを単位とした導入教育、専門科目の基礎と関連づけた少人数教育、専門性を養う講義、および教員と学生が相互に顔の見える関係での演習を核とする基幹教育や外部機関と連携した多彩な実践的教育によって、理論と現実をバランスよく学ぶ目的で、次の趣旨を盛り込んだ科目からなるカリキュラムを編成しています。

1. 必修科目・概論による導入教育を通じて、経済学と経営学の基礎的知識を修得させる。
2. 基礎セミナーやアクティブ・ラーニング・セミナーなどの少人数教育を通じて、経済学と経営学の理論的な知識を深く掘り下げて修得させる。
3. 専門科目と演習の基幹教育を通じて、学生の知的な関心に沿って専門性の到達度を向上させ、理論と現実のバランスのとれた知識と問題解決能力を高める。
4. 外部との連携講座を通じて、現実に応じた多様な実践的知識を修得させる。
5. 英語特修プログラムを通じて、国際的な視野で議論できるようする。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学部は、キリスト教ヒューマニズムの精神を基盤とし、現代社会の諸問題に対して、経済学と経営学を基礎とした複眼的な視点から判断して適切に対応できる能力を養い、グローバルな社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

1. グローバル化する社会において、多様な諸問題に関心を持ち、その解決のために高い意欲をもって主体的に行動する学生を求めています。
2. 経済学と経営学の専門分野の特性を考慮し、外国語の能力とともに、経済学科では論理的思考力（数学）、経営学科では歴史などの社会科系の素養に秀でた学生を求めています。
3. 経済学と経営学の知識をもとにし、営利・非営利組織を問わず、多方面で社会に貢献しようとする意志と、潜在的な可能性を持つ意欲ある学生を求めています。

経済学科（SPSFは別添参照）

〔教育研究上の目的〕

演習・英語による講義などの少人数教育及びミクロ・マクロ経済学などの基礎教育において、経済理論の基礎知識を深く掘り下げながら習得し、現代社会の経済課題について論理的・実証的に分析すること

〔人材養成の目的〕

日々の社会問題・現象を経済学的な視点から分析し、自前の概念装置により社会を評価する能力を国際的な場で活かせる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 経済学的な視点の根幹を成すミクロ経済学・マクロ経済学の考え方や概念について理解し、自分の言葉で説明する能力
2. 経済学の知識を土台として、概念装置としての「モデル」を自ら構築し、現代社会における現実的課題を理解し、課題解決の方法を考える能力
3. 多様な社会経済現象について、情報処理の知識と技能を駆使して、データに基づく統計的分析を遂行する能力
4. 高いレベルのコミュニケーション・スキルを身につけ、国際的な場でリーダーシップを発揮して課題解決に貢献する能力
5. 学生一人一人の個性（知識、能力、興味など）に応じて、現代社会で活躍できる高い専門性を修得する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のとおりカリキュラムを編成しています。

1. 複数の専任教員が担当する必修科目（A群科目：Introduction to Economics, ミクロ経済学A, マクロ経済学A・B）を通して、経済理論の基礎知識を深く掘り下げながら修得させる。
2. モデル構築の基礎となる数理分析の知識を学ぶための経済数学科目「経済数学解析Ⅰ・Ⅱ」、ミクロ経済学あるいはマクロ経済学の応用科目である選択必修科目において社会経済現象を「モデル」として記述して分析する方法を学び、論理的思考能力を修得させる。
3. 情報処理に関する科目（統計学Ⅰ・Ⅱ、計量経済学Ⅰ・Ⅱ、データ分析演習など）を通して、データに基づく統計的分析能力を修得させる。
4. アクティブ・ラーニング・セミナーと演習（ゼミ）では少人数のディスカッションやグループ学習を行い、他者と協力して課題を解決するためのコミュニケーション・スキルを修得させる。
5. 学生が国際的な場で活躍できる英語でのコミュニケーション・スキルを身につけられるように、英語で提供される専門科目（ECOЕ：Economics Courses Offered in English）を選択必修科目に設置し、また一定の条件を満たした学生にプログラム認定を行う経済学部・経済学英語特修プログラム（Faculty of Economics, Economics in English Program）を設ける。
6. ディプロマ・ポリシーで目標としている共通の基礎的な知識と能力を基盤として、さらにそれぞれの学生が自らの特性や興味にあった専門性を獲得することを支援するために、より専門性の高い経済学の科目に加え、経営学や他学部他学科科目を含む多様な専門科目を選択できるよ

うにする。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科の基本的な教育目標は、現代社会を取り巻く現実的課題を解決するための論理的思考能力の涵養です。経済学的視点にもとづき構築したモデルを駆使する学問的特性から、経済学の論理には「数学的思考」が不可欠です。このため、本学科では、入試科目として、論理的思考の基礎となる国語・外国語（英語等）に加えて数学を必須科目とし、高い意欲をもつ優秀な学生を受け入れます。

1. 現代社会の諸問題に対して高い関心を持ち、社会に貢献できるようになりたいという高い意欲を持つ学生を求めています。
2. 論理的思考の基礎となる言語能力（自らの考えを整理して言葉で表現する力や他者の考えを理解する力）、および数学的な思考能力を備えた学生を求めています。
3. 学生が経済学科において、自ら主体的に行動し、対話を通じて他者を理解し、他者と協働できるようになることを期待します。

経営学科（SPSFは別添参照）

〔教育研究上の目的〕

高度な専門知識及び幅広い教養を身につけ、社会とのかかわりにおいて多様な視角から経営を理解し、実践していく能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

ローカル及びグローバルな社会との関連で経営を理解し、専門知識に基づいた合理的な意思決定を行うことによって、企業経営だけでなく、地域社会・国際社会などに貢献できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. グローバル化・複雑化が進展していく経営環境を的確に分析するための知識や技能
2. 経営学の考え方や概念および専門的知識を理解し説明する能力
3. 現実社会における問題解決をリードするために、複雑で多様な情報を効率的に収集、処理し、問題解決へとリードする能力
4. 厳しい制約条件のもとで適切な意思決定をおこなうために、異質性や多様性を尊重する態度を持ち、オープンでフェアな議論、および情報発信する能力
5. 高いレベルのコミュニケーション・スキルを身につけ、国際的な場でリーダーシップを発揮する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 1年次 においては必修科目「経営学概論Ⅰ」および「経営学概論Ⅱ」において、専門的な学修を進めていく上で身に付けておかなければならない学修スキル、専門基礎知識、コミュニケー

ション能力、論理的な考え方、社会的な倫理観を修得させる。

2. 専門科目、および演習（ゼミ）において専門的知識を深め、現代社会の問題を解決するための能力を修得させる。
3. 1年次の「経営学概論Ⅰ」、2年次の「経営基礎研究セミナー」、3・4年次の演習と、4年間を通じた小人数科目で、主体的に学習に取り組む態度を身につけ、コミュニケーション・スキルの向上を目指す。
4. 実務経験者や実務家による現実的な実務感覚を養う科目、および実際のビジネスの現場を学ぶ科目を開講する。
5. 国際的な場で活躍できるように、ネイティブによる英語科目、「経営英語」「Special Topics in Management」を通じ、ビジネスコミュニケーション・スキルを修得させる。
6. 専門的な知識を英語で理解する科目を選択必修科目に設置する。
7. 一定の条件を満たした学生にプログラム認定を行う経済学部・経営学英語特修プログラム（Faculty of Economics, Management in English Program）を設ける。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科は企業の経営活動に関する高度な専門知識を体系的に学習すると同時に、グローバルな社会との関わりの中で経営活動を理解し、経営に関する合理的な意思決定により社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

1. 多様な現実社会の問題に対し関心を持ち、主体的に関わりあう意欲を持つ学生を求めています。
2. 多面的な視点から社会現象を論理的に分析して理解するために必要とされる日本語および外国語の能力、歴史などの社会科の素養、論理的能力に秀でた高い意欲を持つ学生を求めています。
3. 将来、営利組織、非営利組織を問わず、国内外の組織やプロジェクトにおいて活躍する意欲のある学生を求めています。

6. 外国語学部

〔教育研究上の目的〕

外国語の高度な運用能力を養い、それをもとに、9つの研究コースにおいて、各専攻語が使用されている地域に関する地域研究、また言語研究、国際政治論研究、市民社会・国際協力論研究を行うこと

〔人材養成の目的〕

各専攻語の運用能力、専門研究を通じて獲得した知識と複眼的な視点を基盤として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、また言語研究、国際政治論研究、市民社会・国際協力論研究の専門家を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与する。

1. 人間に固有に備わる言語について多面的に考察する力
2. 日本語を含む諸言語の普遍性と多様性を理解し、さまざま言語事象について探求していく力
3. 社会、文化、教育など人間の生活における言語の幅広い役割を認識し、獲得した知識を積極的に活用できる力
4. 特定の国・社会・地域を、歴史・政治・経済・社会・文化など分野横断的に研究する力
5. 特定の国・社会・地域の事象や問題に関心をもち、専門的知識を駆使して深く分析する力
6. 日本を含む複数の国・社会・地域を比較することで、それぞれについて相対的に考察する力
7. 国際政治および市民社会・国際協力に関心をもち、専門的知識を駆使して深く分析する力
8. 日本語、英語を含む複数の言語で書かれた資料を読み、議論する力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、いずれも学生の能動的・積極的な参加を前提とする第一主専攻科目および研究コース科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・専攻語科目】1・2年次においては専攻外国語の基本的な運用能力を体系的・実践的に修得させる。それを土台に、3・4年次においては、より実践的、かつ専門研究に取り組む上で十分な運用能力を身につけさせる。オールラウンドな語学の基礎力が身につくように、口頭・筆記による練習を中心に授業を進める。
2. 【第一主専攻・語圏基礎科目】主に1・2年次において、専攻語が使用される地域における歴史・政治・経済・社会・文化・言語に関わる基礎的な知識を修得させる。講義形式を中心に、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。
3. 【研究コース・導入科目】2年次秋学期に学生は各自の興味関心や志向にしたがい研究コースを選択するが、その準備段階として1・2年次生において、研究に必要な基礎的知識と方法論を修得させる。講義形式を中心に、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。
4. 【研究コース・コア科目】主に2年次以降、研究コースでの学びの中核として、それぞれの専門分野について知識と問題意識を深め、多角的に学ぶ。講義系科目では、必要に応じ、グループワークやプレゼンテーションを織り交ぜながら授業を進める。語学系科目では、高度な言語運用能力を身につけさせるための練習も取り入れる。
5. 【研究コース・演習科目、卒業論文】3・4年次においては、それぞれの専門分野について自ら研究課題を設定し掘り下げることで、主体的な研究能力を養う。さらに、卒業論文・卒業研究を作成することにより、構想力・論理的思考力・表現力を身につけることができる。論文の書

き方を修得させるとともに、プレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進める。

〔アドミッション・ポリシー〕

日本語の運用能力を基盤に、外国語運用能力の獲得に真摯に取り組むことのできる学生を求めています。また、単に言語運用能力にとどまらず、自らの住む地域から世界全体に至るまで起こっていることに積極的に関心を持ち、それを自分の問題として考え、解決策を見出していこうと努力を重ねていけることを期待します。

英語学科

〔教育研究上の目的〕

卓越した英語運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（言語学、人文・社会科学、英語圏に関する基礎知識）を修得すること

〔人材養成の目的〕

英語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠（CEFR）におけるC1相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えてできるだけ多くの者が同C2相当（C1を超えるレベル）に到達することを目標とします。

1. 英語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動（receptive activities）に関する能力
2. 英語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動（productive activities）に関する能力
3. 英語の会話や交渉に代表される相互行為活動（interactive activities）に関する能力
4. 英語の通訳・翻訳などに代表される仲介活動（mediating activities）に関する能力
5. 英語圏の歴史・政治・経済・社会・文化について、世界での位置づけおよび日本との比較を通して理解する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修英語科目】1・2年次において集中的に学ぶこれらのクラス群では、様々なアクティビティや論文作成を通じて、英語「で」考え、発信し、議論できる4技能におけるアカデミックな英語運用能力の向上を目指す。また、英語が公用語とされている地域の文化・社会についての知識も身につけさせる。授業は、講義、グループワーク、ペアワークなど様々な授業形態を通して多角的に展開されるが、特にプレゼンテーションを重視する科目が多く、内容豊かな事柄をいかに効果的に英語で理解、発信していけるかを追求する。
2. 【第一主専攻・英語圏基礎科目】主に2年次において、英語圏に関する歴史や文化、社会、また言語そのものに関するクラスで学ぶことを通じて、英語圏に関しての基礎知識を身につけさせ

る。授業は、講義、グループワーク、ペアワーク、またプレゼンテーションなどを織り交ぜて多角的に展開される。

3. 【第一主専攻・英語・英語圏研究科目】 1年次から4年次にかけて、学生はそれぞれの興味や関心に応じて選択して取れる科目を通じて、英語運用能力をさらに伸ばすとともに、英語や英語圏に関する知識を深化させることができる。授業は、講義、グループワーク、ペアワーク、またプレゼンテーションなどを通して多角的に展開され、参加型で思考しながら学ぶことが強調される。

〔アドミッション・ポリシー〕

1. 英語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに関わる諸問題に関心を持ち、英語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めます。
2. これまでにしっかりとした英語の学習経験のある学生で、高度な内容について英語で学習するための基本的な知識と技能を備え、真摯に勉学に取り組む姿勢を持つ学生を受け入れます。
3. 英語とその他の外国語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げることを期待します。

ドイツ語学科

〔教育研究上の目的〕

ドイツ語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、ドイツ語圏に関する基礎知識）を修得すること

〔人材養成の目的〕

ドイツ語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠（CEFR）におけるB2相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えてできるだけ多くの者が同C1相当（海外の大学院で学べるレベル）に到達することを目標とします。

1. ドイツ語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. ドイツ語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. ドイツ語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. ドイツ語の通訳・翻訳などに代表される仲介(mediating activities)活動に関する能力
5. ドイツ語圏の歴史・文化・政治・社会について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを

編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ）】1・2年次では、文法・読解を中心とする講義・演習形式の授業と、複数のネイティブスピーカーの教員と日本人教員が連携して「聞く、話す、読む、書く」の4技能をペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションなどを含む実践的練習によって伸ばす授業を通して、ドイツ語の基礎的運用能力の修得を目指す。コミュニケーションの授業においては、教員の授業における使用言語も主にドイツ語である。いずれの授業においても、能動的な授業参画が前提であり、授業中および授業外における主体的な学習が求められる。
2. 【第一主専攻・必修科目（ドイツ語Ⅲ・専門読解準備コース）】1・2年次で修得したドイツ語の基礎学力を用いて、3・4年次では、実践的に語学力を運用する高度なスキルを学ぶ。口頭表現と聴解演習からなるドイツ語Ⅲでは、授業は主にドイツ語で進められ、ペアやグループでのコミュニケーションやプレゼンテーション、聴解能力を高める聞き取りや書き取りなど、多様な形式で学ばせる。また専門読解準備コースでは、言語、思想・文化、政治・社会の3領域について、より高度な内容の文献講読を通して、専門的な内容の読解をする力を身につけさせる。
3. 【第一主専攻・語圏基礎科目（ドイツ語圏研究）】1・2年次において、ドイツ語圏における歴史・政治・経済・社会・文化・言語など、ドイツ語を基盤として今後ドイツ語圏について学んでいくための基礎的知識を身につけることを目指す。また、文献検索やレポート作成などの基礎的な学術能力を身につけさせる。主に在外履修をはじめ留学に行く学生向けに、ドイツ語圏での生活や大学での学びのための準備も行う。授業では講義の他、グループワークやプレゼンテーションなども実施される。
4. 【在外履修に伴う履修科目】基礎ドイツ語Ⅱとドイツ語圏研究の一部およびドイツ語Ⅲは、2年次秋学期におけるドイツ語圏の協定校での在外履修によって、修得することができる。また在外履修や交換留学から帰国した学生は、学部の研究コース科目のうち、学科が「日独比較研究」科目として指定する科目（通訳・翻訳を含む）を履修し、ドイツ語圏からの留学生と共に学ぶことで、異文化間コミュニケーション能力を高めるとともに、各分野の比較研究を深める。

〔アドミッション・ポリシー〕

1. ドイツ語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに関心を持ち、ドイツ語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めます。
2. 基本的に、本学科においてドイツ語の学習を開始したい学生を求めています。すでに何らかの形でドイツ語の学習経験のある学生で、改めて体系的に学ぶことを通じ、その運用能力の向上に真摯に取り組む姿勢を持つ学生も受け入れます。
3. ドイツ語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げることを期待します。

フランス語学科

〔教育研究上の目的〕

フランス語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、フランス語圏に関する基礎知識）を修得すること

〔人材養成の目的〕

フランス語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠(CEFR)におけるB2相当(海外の大学で学べるレベル)に到達し、それに加えてできるだけ多くの者が同C1相当(海外の大学院で学べるレベル)に到達することを目標とする。

1. フランス語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. フランス語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. フランス語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. フランス語の通訳・翻訳などに代表される仲介(mediating activities)活動に関する能力
5. フランス語圏の歴史・文化・政治・社会について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目(基礎フランス語I・II)】1・2年次を通して、「聞く、話す、読む、書く」の4技能にわたって、フランス語の基礎的運用能力の修得を目指す。授業では、複数の教員(日本人およびネイティブ)でチーム・ティーチングを行い、講義、グループワーク、ペアワーク、プレゼンテーションなど授業の目的に合わせて展開されるが、学生の授業への積極的な参画とともに、毎日の予習・復習を含む計画的な学習が求められる。
2. 【第一主専攻・必修科目(総合フランス語)】1・2年次で修得したフランス語の基礎学力を用いて、3年次対象の聴解・表現・講読演習では実践的に語学力を運用する高度なスキルを学ぶこと、4年次対象の総合演習では総合的なフランス語運用能力を応用的に身につけさせることを目指す。授業はグループワークやプレゼンテーションなどを中心に多角的に展開される。
3. 【第一主専攻・語圏基礎科目】1・2年次において、フランス語圏の国々や地域における歴史・政治・経済・社会・文化・言語など、フランス語を基盤として今後フランス語圏について学んでいくための基礎的教養を身につけることを目指す。また、レポートやプレゼンテーションなどの大学での学びにおいて不可欠なアカデミック・スキルズの基礎を修得させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

1. フランス語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに関心を持ち、フランス語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めます。
2. 基本的に、本学科においてフランス語の学習を開始したい学生を求めています。すでに何らかの形でフランス語の学習経験のある学生で、改めて体系的に学ぶことを通じ、その運用能力の向上に真摯に取り組む姿勢を持つ学生も受け入れます。
3. フランス語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げることを期待します。

イスパニア語学科

〔教育研究上の目的〕

イスパニア語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、イスパニア語圏に関する基礎知識）を修得すること

〔人材養成の目的〕

イスパニア語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠（CEFR）におけるB2相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えてできるだけ多くの者が同C1相当（海外の大学院で学べるレベル）に到達することを目標とします。

1. イスパニア語の「聞く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. イスパニア語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. イスパニア語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. イスパニア語の通訳・翻訳などに代表される仲介(mediating activities)活動に関する能力
5. イスパニア語圏の歴史・政治・経済・社会・文化・文学・言語について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎イスパニア語I、II）】1年次、2年次を通してイスパニア語の4技能「聞く、読む、話す、書く」の基礎を学ぶ。「読む」「書く」能力の養成を中心とした、文法、講読、作文の講義・演習形式の授業と、「聞く」「話す」力を身につけさせることに主眼を置いた口頭での実践的練習に重きを置いた授業を通して、イスパニア語の運用能力の土台を作る。ネイティブスピーカーの教員と日本人教員とが協働してあたるため、初修言語修得に効率的な学習が可能である。学生はいずれの授業においても、能動的な授業参画が前提であり、授業中および授業外における主体的な学習が求められる。
2. 【第一主専攻・必修科目（総合イスパニア語）】3・4年次では、「話す・聞く」「読む」「読む・話す」「書く」「読む・書く」といったスキル別に各自が強化したい分野を選択して履修し、イスパニア語の運用能力をさらに高める。1・2年次で修得したイスパニア語の基礎的能力を用いて、さらに実践的かつ応用的なイスパニア語の運用能力を身につけさせる。授業は実践的な教材を用いた講義形式の読解や、視聴覚教室を活用した聴解能力を高める聞き取りや書き取り、グループでのコミュニケーションやプレゼンテーション、ディベートなど、多様な形式で行われる。ネイティブスピーカーの教員の授業における使用言語はイスパニア語が中心であり、学術的内容をイスパニア語で学習させる。日本人教員の授業では、より高度な内容の文献講読などを通して、上級文法への目配りや語彙力の強化にも重きが置かれる。

3. 【第一主専攻・語圏基礎科目】主に1・2年次において、イスパニア語が使用される国や地域(=イスパニア語圏)における歴史・政治・経済・社会・文化・文学・言語に関わる基礎的な知識の修得をめざす。授業形式は講義が中心であるが、グループワークやプレゼンテーションなども実施される。また本科目群に含まれる「イスパニア語圏研究入門」では、文献検索やレポート作成などの基礎的リテラシーを身につけさせる。

〔アドミッション・ポリシー〕

1. イスパニア語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに興味を持ち、イスパニア語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めます。
2. 基本的に、本学科においてイスパニア語の学習を開始したい学生を求めています。すでに何らかの形でイスパニア語の学習経験のある学生で、改めて体系的に学ぶことを通じ、その運用能力の向上に真摯に取り組む姿勢を持つ学生も受け入れます。
3. イスパニア語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げることを期待します。

ロシア語学科

〔教育研究上の目的〕

ロシア語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養(人文・社会科学、ロシア・ユーラシア地域に関する基礎知識)を修得すること

〔人材養成の目的〕

ロシア語の高度な運用能力を基礎として、国際社会に貢献しうる人材、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠(CEFR)におけるB2相当(海外の大学で学べるレベル)に到達し、それに加えてできるだけ多くの者が同C1相当(海外の大学院で学べるレベル)に到達することを目標とします。

1. ロシア語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. ロシア語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力
3. ロシア語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. ロシア語の通訳・翻訳などに代表される仲介活動(mediating activities)に関する能力
5. ロシア語圏の歴史・文化・政治・社会について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎ロシア語I・II）】1・2年次を通して、ロシア語の基礎的運用能力の修得を目指す。1年生では、「文法」「会話」「総合（文法と会話を総合したクラス）」のクラスに分かれ、複数の教員が授業を受け持つ。すべてのクラスでほぼ毎回宿題が課され、年間を通じて25回ほどの試験が実施される。2年生では、「ドリル（文法）」「会話」「講読」のクラスに分かれる。「ドリル」「会話」のクラスでは、ほぼ毎回宿題が課され、年間を通じて20回ほどの試験が実施される。1・2年次を通して、口頭形式の練習と筆記、作文形式の練習が繰り返され、「会話」の授業では、ロールプレイやプレゼンテーションも取り入れる。学生には、積極的な授業参加と日々の予習、復習が求められる。
2. 【第一主専攻・選択科目】1・2年次で修得したロシア語の基礎能力を用いて、読解、聴解、会話、作文などの能力の向上を目指す。将来通訳者を目指す学生のために、通訳法のクラスも準備されている。それぞれのクラスが「上級」「中級」に分かれるが、上級者が中級クラスを受講すること、中級者が上級クラスを受講することも認められている。
3. 【第一主専攻・語圏基礎科目】ロシア・ユーラシア地域の文化や歴史、社会や経済などについての基礎的な知識を提供するための科目が、1,2年生向けの必修科目として開講されている。

〔アドミッション・ポリシー〕

1. ロシア語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに関心を持ち、ロシア語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めます。
2. 基本的に、本学科においてロシア語の学習を開始したい学生を求めています。
3. ロシア語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げることが期待されます。

ポルトガル語学科

〔教育研究上の目的〕

ポルトガル語の高度な運用能力を養い、地域研究、言語研究等の専門研究の基礎となる幅広い教養（人文・社会科学、ポルトガル語圏に関する基礎知識）を修得すること

〔人材養成の目的〕

ポルトガル語の高度な運用能力を基礎として、グローバル化する社会に貢献しうる人物、並びに地域研究、言語研究等の専門家を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

卒業時において全員がヨーロッパ言語参照枠（CEFR）におけるB2相当（海外の大学で学べるレベル）に到達し、それに加えてできるだけ多くの者が同C1相当（海外の大学院で学べるレベル）に到達することを目標とします。

1. ポルトガル語の「聴く」「読む」に代表される受容的言語活動(receptive activities)に関する能力
2. ポルトガル語の「話す」「書く」に代表される産出的言語活動(productive activities)に関する能力

力

3. ポルトガル語の会話や交渉に代表される相互行為活動(interactive activities)に関する能力
4. ポルトガル語の通訳・翻訳などに代表される仲介(mediating activities)活動に関する能力
5. ポルトガル語圏の歴史・文化・政治・社会について、世界での位置づけや特徴および日本との関係や比較を踏まえて理解する能力

[カリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 【第一主専攻・必修科目（基礎ポルトガル語I,II）】1年次、2年次を通してポルトガル語の基礎を学ぶ。会話・作文、文法、読解(講読と速読)などを通して、ポルトガル語における4技能「聴く、読む、話す、書く」の運用能力の向上を目指す。授業は、講義、口頭での反復練習、グループワーク、プレゼンテーションなど、それぞれの授業目的に合わせて様々な形で展開されるが、いずれの授業においても学生の主体的な学びが重要となる。
2. 【第一主専攻・必修科目（総合ポルトガル語）】1年次、2年次で修得したポルトガル語の基礎学力を用いて、さらに実践的かつ応用的なポルトガル語の運用能力を身につけさせる。授業は主にコミュニケーションやプレゼンテーション、ディベート形式で行われる。担当する教員はネイティブスピーカーが多く、したがって使用言語もポルトガル語が中心となる。一方、日本人教員のクラスでは、より高度な内容の文献講読や上級文法に関する講義なども行われる。
3. 【第一主専攻・語圏基礎科目】主に1・2年次において、ポルトガル語が使用される国や地域(=ポルトガル語圏)における歴史・政治・経済・社会・文化・言語に関わる基礎的な知識を学ぶ。授業形式は講義が中心であるが、授業内でグループワークやプレゼンテーションなども実施される。また本科目群の一つの科目「ポルトガル語圏研究入門」では、地域研究の手法を用いた6000字程度のレポートの執筆に取り組むことで、大学での学びにおいて不可欠であるレポート・論文の書き方を修得する。

[アドミッション・ポリシー]

1. ポルトガル語圏の言語・歴史・政治・経済・社会・文化などに関心を持ち、ポルトガル語の高度な運用能力を身に付けることを望む学生を求めます。
2. 基本的に、本学科においてポルトガル語の学習を開始したい学生を求めています。すでに何らかの形でポルトガル語の学習経験のある学生で、改めて体系的に学ぶことを通じ、その運用能力の向上に真摯に取り組む姿勢を持つ学生も受け入れます。
3. ポルトガル語と英語の実践的な運用能力を基盤として、外国語学部が設けている9つの「研究コース」のいずれかにおいて、自ら選んだ領域やテーマについて専門的に掘り下げることを期待します。

7. 総合グローバル学部

総合グローバル学科（SPSFは別添参照）

〔教育研究上の目的〕

国際関係論と地域研究の二つに大別された科目群の双方を体系的に履修することで、1) グローバリティの理解、2) ローカリティの理解、3) 複言語（英語、地域言語）の運用能力、4) 倫理観に裏付けられた交渉能力 を習得させる

〔人材養成の目的〕

グローバル化の正負の側面に対処して、世界の人々が共に歩む共生社会の構築に貢献しようとする国際的公共知識人を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、グローバル化の進行する現代にあって、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向け、国際的公共知識人たることを目指す学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 安全保障、紛争、貧困、開発、移民、難民、地球環境などに関心を持ち、それらがなぜグローバルに解決を要する問題であるか説明する能力
2. グローバル・スタディーズを支える国際関係論と地域研究の考え方や理論の全体像を理解し、双方の視点を組み合わせて考える能力
3. グローバル化の正負の側面について、具体的な事例に即し、基礎的な理論と実証的な方法を用いて分析を行い、問題解決の方法を構想する能力
4. 国際政治論と市民社会・国際協力論のうち1領域、アジア研究と中東・アフリカ研究（ないしその他の地域の研究）のうち1領域を専門として選択し、2領域を組み合わせた主題を設定し、調べる能力
5. 世界の諸地域に生活する多様な他者と対話し、共存する社会の形成に向けて、協力して問題解決に当たる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. グローバル・スタディーズと、これを支える国際関係論および地域研究の基礎について講義を通じて学び、基幹となる理論と方法を修得させると共に、研究の基礎的な技能と姿勢を身につけさせる。【100番台科目】
2. 国際政治や経済の動態を把握し、国際協力や市民社会のメカニズムについて講義を通じて学び、専門の選択に備える。【200番台科目】
3. アジア、中東、アフリカ等について、歴史、文化、政治、経済他の諸側面から講義を通じて学び、専門の選択に備える。【200番台科目】
4. 国際政治論、市民社会・国際協力論から1領域、アジア研究、中東・アフリカ研究等から1領域を専門とし、講義等を通じてグローバルな問題の解決策を構想し、実践する力を養う。【300、400番台講義科目】
5. グローバル化の諸問題について、個別の課題を主体的に設定し、その研究成果を論文等の明確な形にして示す。【200番台自主研究、400番台演習、400番台卒業論文・研究等】
6. 少人数の演習を通して、議論によって相互の理解を深め、各自の課題研究を支えあう姿勢を身

に着けさせる。【100番台基礎演習、400番台演習】

7. 英語で講義される科目の受講などを通じて、国際共通語である英語の力を高めると共に、英語以外の外国語修得を心がけて複言語能力を獲得させる。【200番台以降の講義科目】

【アドミッション・ポリシー】

知的な関心と意欲を主体的努力によって伸ばし、グローバルな共生社会の形成に貢献しようとする以下のような学生を受け入れます。

1. グローバル化する世界が呈する正負の諸側面に対する大きな関心を抱き、高等学校在学中の現代社会に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
2. 世界を構成するさまざまな地域や人々の多様性がもたらす人類の社会と文化の豊かさに対する大きな関心を抱き、高等学校在学中の地理、世界史に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
3. 物事に対して根拠に基づいた論理的な思考ができ、かつ主体的に取り組むことができるよう努力を重ねてきた者。
4. グローバル化する世界の動きを理解するのに必要な基本的な文献を読解することのできる英語能力を有している者。

8. 国際教養学部

国際教養学科

〔教育研究上の目的〕

英語で行われる教養教育を通じ、比較文化・社会科学・国際経営経済の各専門分野の科目を隣接領域と有機的に関連させつつ学ぶことで、高度な語学力、多文化対応発信能力、及び柔軟な思考力を養うこと。また、学際的な研究を通じてグローバル社会の理解と問題解決に寄与すること。

〔人材養成の目的〕

十分な国際感覚、言語運用能力、及び柔軟な思考力を養い、グローバル化に対応し多様な文化間の架け橋として活躍できる人材を養成すること。

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 包括的かつ学際的な教養と、英語により思考しコミュニケーションを行なうことのできる高度な英語力
2. 高度に専門的な視点と一般的な幅広い視点の両方をもって特定の問題にアプローチする知的能力
3. 多文化的環境に自らとけこみ、多様かつ重要な社会文化的問題のより良き理解に貢献する共同的活动に従事する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. コア・プログラムでは、英語を用いて文献を解読し、批判的に思考し、さらに発表・議論ができる基礎的な能力を修得させる。
2. 学部独自のディストリビューション科目群は、領域横断的な入門的教養科目群であり、「社会と文化」「文化的伝統」「政治と経済」という三つのカテゴリーに分けられています。学生は、その三分野から広く受講することで、世界の多様な社会の仕組みや文化的価値・歴史に触れ、視野を広げるとともに、専攻分野に進むための基盤を形づくる。
3. 比較文化、国際経営・経済、社会科学という三つの専攻分野では、基礎的なものから専門性の高い科目まで体系的にカリキュラムが構成され、学生個々の関心にしたがってそれぞれの分野の知識を深く追求できます。また、同時に隣接領域の科目も履修することで、はば広く柔軟な視点を身につけることができる。

〔アドミッション・ポリシー〕

The Faculty of Liberal Arts of Sophia University welcomes students who are:

1. Motivated to become active and responsible members of the global community and to participate in the creation of social, economic, and humanistic values essential for its sustenance and betterment.
2. Intellectually curious and eager to improve their communication and analytical skills to constructively interact with others from diverse socio-cultural backgrounds.
3. Prepared to expand further their knowledge so that they become able to identify and

approach with competence global issues.

本学部は以下のような学生を求めます。

1. 能動的にかつ責任を持って、グローバル化する社会の一員となる意欲を持ち、その維持と改善に欠かせない社会的・経済的・人文的な価値の創出にすすんで参画する。
2. 多様な社会文化的背景をもつ他者と建設的に交流するために欠かせない知的好奇心の旺盛さ、自らのコミュニケーション能力・分析力を改善する強い意欲を持つ。
3. グローバルな問題を見極めアプローチしてゆくことができるよう、自らの知識を増やしてゆく覚悟がある。

9. 理工学部

〔教育研究上の目的〕

基盤となる専門分野の知識を習得するとともに、多様化した現代社会が抱える諸問題の解決に資するため、文理融合教育によって異分野を客観的に見ることのできる幅広い教養、すなわち「複合知」を身につけること

〔人材養成の目的〕

専門分野とともに「複合知」を習得し、多様化した現代社会が抱える諸問題を解決するために、幅広い視野から「科学・技術の発展」に貢献できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、キリスト教ヒューマニズム精神を理解した上で、多様化する現代社会の抱える科学・技術の諸問題を幅広いおよび国際的視野から解決する能力を備えるとともに、高い想像性ならびに創造性に根差した独創的な研究を推進し、科学・技術のさらなる発展へ貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 学生が共通に履修すべき講義中心の理工学部共通科目Ⅰ群、Ⅱ群により、科学・技術の諸問題を幅広いおよび国際的視野から解決する基礎的な能力を修得させる。
2. その上で、演習や実験科目を多く取り入れた学科コア科目により専門的な能力を身につけさせ、さらに専門性の高い講義科目から編成されている専門科目により独創的な研究を推進できる能力を修得させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学部は、国際的に多様化する現代社会が抱える科学・技術に興味や関心を持つ学生を求めています。

1. 科学・技術に関する専門科目を学ぶにあたり、数学、理科、英語についての知識・教養を身につけている者。
2. 科学・技術に関する諸問題について、論理的な思考力、幅広い視野およびコミュニケーション能力を持つ者。
3. 科学・技術に関して、探究心が旺盛で自然現象の解明や新たな技術革新に意欲を持つ者。

The Faculty of Science and Technology is seeking students who are interested in science and technology in today's internationally diversified society.

1. Those who have acquired knowledge and basic abilities in mathematics, natural science, and English, which are required for learning specialized courses in science and engineering
2. Those who are logical thinkers, possess a broad perspective, and have strong communication skills to deal with various problems in science and technology
3. Those who have an inquiring mind and are eager to unravel the mysteries surrounding natural phenomena and/or create technological innovations in science and technology

物質生命理工学科

〔教育研究上の目的〕

物理学、化学、生物学、環境学、材料科学などの学問分野を融合的に学び、原子・分子から高分子、生命現象にわたる物質の基礎を理解し、応用・展開する能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

新しい概念の物質や技術の創成に貢献するために、新しい物質観と生命観を備え、かつ、地球環境と科学技術の永続的な融和を担える人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、自然と融合した物質観と生命観および広い視野に基づく複合知を身につけた人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 自然科学分野の基礎を理解し、科学技術に対する安全・倫理観
2. 物理学、化学、生物学の基礎を土台として、物理、化学、生命現象を理解する能力
3. 物質・生命の基礎を体系的にとらえ、原子・分子から高分子、生体分子にわたる物質の創成と技術開発に貢献する能力
4. 学修した内容を理論・技術的に応用展開する能力を修得し、物質とナノテクノロジー、環境と生命の調和、高機能材料の創製に結びつく理工学における課題解決に貢献する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 理工共通科目Ⅰ群科目を通して、自然科学分野の基礎を理解し、科学技術に対する安全・倫理観を修得させる。
2. 理工共通科目Ⅱ群科目を通して、物理学、化学、生物学、情報学、数学など自然科学全般の基礎を学修させる。同時に、科学技術英語を通して、英語で理解・表現する能力を修得させる。
3. 物質・生命に関する学科コア科目（物理学・化学・生物学分野の講義と実験科目）を通して、原子・分子から高分子、生体分子にわたる物質の創成と技術開発に貢献できる能力を修得させる。
4. 物質とナノテクノロジー、環境と生命の調和、高機能材料の創製に関する高度な学問的内容（学科専門科目）を学修させ、応用・展開する分野、学際的な分野、および実社会に繋がる課題解決方法を修得させる。
5. 少人数教育体制のもと、卒業研究およびゼミナールを通して先端分野を理解するとともに、成果発表を行い、研究者としての素養を修得し、学修した内容を理論・技術的に応用展開する能力を修得させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科は、自然科学における諸現象の解明や新たな物質の創成と技術開発への貢献を可能にする学生を求めています。科学・技術と地球環境の融和に関心を持ち、自然と調和した物質観・生命観を構築することに意欲を持つ学生を求めています。

1. 高等学校の数学、理科、英語の授業内容を十分に理解している者。
2. 論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力を持つ者。
3. 自然科学に強い興味をもち、諸現象の解明、新たな物質の創成や技術開発への貢献に意欲を持

つ者。

【英語コース】

The Green Science Course seeks students who have a strong desire to tackle environmental issues by elucidating various phenomena in natural science and creating new materials. They also should be interested in the harmony of science and technology with the global environment.

1. Those who well understand high school level mathematics, science, and English.
2. Those who have logical thinking ability, a broad perspective, and communication skills.
3. Those who show keen interest in natural science and the global environment as well as eagerness toward the elucidation of various phenomena, the creation of new materials, technological development, and grappling with environmental issues.

本学科は、自然科学における諸現象の解明や新たな物質の創成と技術開発に基づいて環境問題への取組に意欲を持つ学生を求めています。科学・技術と地球環境の融和に関心を持つ学生を求めています。

1. 高等学校の数学、理科、英語の授業内容を十分に理解している者。
2. 論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力を持つ者。
3. 自然科学と地球環境に強い興味を持ち、諸現象の解明、新たな物質の創成や技術開発と環境問題への取組に意欲を持つ者。

機能創造理工学科

〔教育研究上の目的〕

物理学、数学への深い理解を基礎に、材料、デバイス、エネルギー、機械、システムに関する知識を習得することによって、まったく新しい価値や機能を生み出す能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

科学技術上の諸問題の解決に貢献するために、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを応用・発展させることのできる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、科学・技術に関する確固たる基礎知識を持ち、新たな物理的価値観の獲得や機能の創造に繋がる独創的技術の開発に貢献できる人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 自然科学分野などの理工学の基礎を学ぶことにより、科学・技術の諸問題に対応する幅広い能力
2. 物理学、機械工学、電気・電子工学を体系的に学ぶことにより、新たな物理的価値観の獲得や機能の創造に貢献する能力
3. 「エネルギーの創出と利用」、「物質の理解と材料・デバイスの創成」、「ものづくりとシステムの創造」の切り口で物理学、機械工学、電気・電子工学を学ぶことにより、独創的技術の開発に貢献する能力
4. 学修した内容を理論・技術的に応用展開することにより、科学・技術の諸問題を解決する力を

身につけ、独創的な研究を推進し、科学・技術のさらなる発展へ貢献する能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、物理学や数学への深い理解を基礎に、「機械工学」、「電気・電子工学」、「物理学」の学問体系と「エネルギーの創出と利用」、「物質の理解と材料・デバイスの創成」、「ものづくりとシステムの創造」というキーテーマを融合した知識（複合知）を身につけ、社会に貢献する能力の養成を目指しています。これにもとづいたディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 全学共通科目と語学科目を通して、幅広い教養やグローバルな視野を広げる科目、英語科目、キリスト教的ヒューマニズムを理解する科目を学修し、国際化の進展に対応できる素養を修得させる。
2. 理工共通科目 I 群を通して、科学・技術の諸問題に対応する幅広い能力を養成するため、物理学、化学、生物学など自然科学全般、および数学、情報学など理工学の基礎を修得させる。
3. 物理学、機械工学、電気・電子工学などに関する理工学の基礎を幅広く学び、さらに学科コア科目および学科専門科目などの講義および実験・演習科目を通して、物理学、機械工学、電気・電子工学分野の中から希望の分野を選択し、それぞれの分野をより体系的に修得することで、新たな物理的価値観の獲得や機能の創造に貢献できる能力を養成する。同時に、英語で理工学の基礎を理解するために、科学技術英語を修得させる。
4. 学科コア科目および学科専門科目などの講義・実験・演習科目を通して、「エネルギーの創出と利用」、「物質の理解と材料・デバイスの創成」、「ものづくりとシステムの創造」の切り口で講義と実験・演習科目を選択することも可能とし、実社会において物理学、機械工学、電気・電子工学を駆使して応用・展開する学際的な力を修得させる。
5. 卒業研究を通して、先端分野を理解するとともに、成果発表を行い、研究者としての素養を修得し、学修した内容を理論・技術的に応用展開する能力を修得させる。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科は、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそれらを融合し、科学・技術上の諸問題の解決への貢献を可能にする学生を受け入れます。

1. 高等学校の数学、理科、英語の授業内容を十分に理解している者。
2. 論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力を持つ者。
3. 本学科が担う物理学、機械工学、電気・電子工学を自ら幅広くかつ深く学ぼうとする積極性と、修得した学問・技術によって卒業後に社会へ貢献しようとする強い意志を持つ者。

【英語コース】

The Green Engineering Course is seeking students who have received extensive education, possess solid expertise in relevant fields, and are able to contribute to solving various problems in science and engineering by flexibly making the most of their educational backgrounds.

1. Those who have a good grasp of high school level mathematics, science, and English
2. Those who are logical thinkers, possess a broad perspective, and have good communication skills.
3. Those who show enthusiasm in widely and deeply learning physics, mechanical engineering, and electrical and electronic engineering, which constitute the basis of the Green Engineering Course, and who have a strong desire to contribute to society after graduation, using acquired academic knowledge and technology.

グリーンエンジニアリングコースは、幅広い教養とゆるぎない専門知識を背景に、柔軟な発想でそ

れらを融合し、科学・技術上の諸問題の解決への貢献を可能にする学生を受け入れます。

1. 高等学校の数学、理科、英語の授業内容を十分に理解している者。
2. 論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力をもつ者。
3. 本コースが担う物理学、機械工学、電気・電子工学を自ら幅広くかつ深く学ぼうとする積極性と、修得した学問・技術を卒業後に社会貢献しようとする強い意志を持つ者。

情報理工学科

〔教育研究上の目的〕

情報科学、電子情報学、数学、生物学を基礎とし、人間・コミュニケーション・社会・数理の情報分野を学び、文理の学際的視点も併せもち、情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

人間や社会に役立つ情報の体系やシステム、新しい情報技術の創成に貢献するために、人間、社会が築いてきた情報、知識、概念を理解・蓄積し、これらを情報技術の活用でより発展させることのできる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、「情報」を基盤として人間と社会を複合的により深く理解する人材、人間や社会が有する知識・知恵・経験を蓄積し、目に見える情報として整理することができる人材、さらに人間情報・情報通信・社会情報・数理情報の少なくとも1つのテーマについて専門的な知識を有し、それらを有機的に組み合わせ、人間や社会に還元する能力を有する人材の養成を目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 現代社会の広い意味での「情報」に関して、その意味づけや原理・理論さらには社会のさまざまな分野での日常的な応用を理解する能力
2. 脳や神経、身体、感覚・認知・言語など、人間そのものに関わる情報処理、および、人間支援・教育支援など、人間の活動に関わる情報処理を理解し、人間に関わるあらゆる側面に対応できる能力
3. 情報通信に関する基礎技術を理解し、情報通信技術の発展にかかわる諸課題を主体的に解決できる能力
4. IoT、人工知能、データベース、ソフトウェア工学等の情報の生成・活用・蓄積・流通に関わる基礎技術を理解し、最先端情報技術を利活用・創出できる能力
5. 情報科学を含むすべての現代科学の理解に不可欠な数学の知識を学び、現代社会の情報技術におけるさまざまな問題を主体的に解決できる能力

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、情報科学・通信工学・数学・生物学を基礎とし、人間・通信・社会・数理の情報分野を複合的に学習し、また文理融合的視点もあわせもち、情報を総合的かつ専門的に分析・統合・展開する能力を養成することを目指しています。これにもとづいたディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 全学共通科目、語学科目、キリスト教的ヒューマニズム等を理解する科目を履修させ、国際化の進展に対応できる基礎的能力を修得させる。また、現代科学を理解するために共通に必要な基礎学力を講義、演習、実験を中心とした共通科目を通じて、主に1,2年次の間に修得させる。
2. 人間における脳や神経活動、感覚情報など、人間を理解するための科目から、人間の体や活動の計測、福祉や教育への応用も視野に入れた科目を通じて、科学的側面と工学的側面の両方を学び、学際・融合的な知識を修得させる。
3. 情報通信技術に関するソフトウェアおよびハードウェアについて、システムの構成要素からそれらの統合に至る幅広い技術分野を網羅する複数の基礎的科目を通じて、通信システム全体を把握した上で専門的な技術を学び、情報通信技術者に必要な基礎を修得させる。
4. 社会に存在する情報をコンテンツとして生成・活用・蓄積・流通させることに関連する諸技術を体系的に理解するため、工学的基礎的科目から社会学的視点も取り入れた応用科目を通じて、最先端情報技術の利活用と創出を担う人材育成に必要な能力を修得させる。
5. 全ての情報分野における基礎的理論を理解するため、数学の基礎科目を通じて、最低限の知識を学生全員に身に付けさせる。また大学院において数学を研究することをめざす学生が専門的な現代数学科目を通じてその知識を修得させる。

【アドミッション・ポリシー】

本学科では、幅広い教養とさまざまな分野で活用されている情報に関する専門知識を修得し、それらを融合・応用・発展させることのできる人材を求めています。科学技術とそれを支える基礎学問、人間・社会に関する「複合知」の構築を背景に独創性を持って、未来の社会を構築することに意欲をもつ人材を求めています。

1. 情報科学・通信工学・数学・生物学を学修する前提となる確かな基礎学力を持つ者。
2. 学問に関する問題発見および課題解決に必要な論理的な思考力や幅広い視野、コミュニケーション能力を持つ者。
3. 人間・通信・社会・数理の情報分野を複合的に学習し、現象を理解する原理の解明、新たなシステムの構築や技術開発への貢献に意欲を持つ者。

10. ディプロマ・ポリシーに係る共通事項

各学部学科のディプロマ・ポリシーに加え、共通項目として、以下を定める。

全学共通科目、語学科目を通して得られる「他者のために、他者とともに生きる人間」としての幅広い視野と外国語を運用する能力

11. 全学共通科目のカリキュラム・ポリシー

本学は、すべての学生が共通に学ぶ全学共通教育科目を編成し提供する。全学共通科目においては、本学の教育の根幹となる「キリスト教ヒューマニズム」に基づき、「他者のために、他者とともに生きる人間」(Men and Women for Others, with Others)として、民族・文化・宗教の多様性を認め、「対話」を行いうる教養と「国際性」を兼ね備えた人材の養成を目指し、以下の科目群を配置する。

(CP1) 1年次の必修科目として「ウェルネスと身体」を置き、その履修を通じて、「他者のために、他者とともに生きる人間」の実践に必要な、他者・外界とのコミュニケーションや自己表現に欠くことができない「身体」について、ウェルネスや身体知の理解および体験学習を通して学び、多角的に考える機会を提供する。

(CP2) 選択必修科目として「キリスト教人間学」科目群を置き、哲学・倫理学・宗教学を基盤とした考えに触れつつ、「キリスト教ヒューマニズム」の精神を理解し、現実に生きる人間とその生き方を総合的に考える機会を提供する。

(CP3) 選択科目では、「建学の理念」「思索の基盤」「人間と文化」「共生と世界」の4分野にわたり、様々な学問分野に関する学習機会の提供を行い、学際的・国際的な「対話」を通して、世界に主体的に問いかけ、問題を発見し、それを自分の言葉で語る力を養う機会を提供する。

(CP4) 社会に出る前に再び自己を見つめ直す機会として、一定の専門性を身につけた3・4年次生が受講する「高学年向け教養科目」を選択科目の中に置き、個別の専門領域を越えた学問横断的発想や、大学における知と現代社会との関係づけなど、多様な視点や事例を提供する授業を通して、急激に変化するグローバル社会に対応しうるより深い教養を身につける機会を提供する。

12. 語学科目のカリキュラム・ポリシー

独仏英と日本のイエズス会員によって設立された上智大学は創設当初から強い国際性をもった大学であり、外国語教育を重視してきました。世界がグローバル化し、複数言語や文化を尊重し、社会で共存していく多言語・多文化主義が当然となった現在でも、その伝統を受け継いでいます。言語教育研究センターでは、一人一人が複数の言語を使う複言語主義の考えに則りつつ、英語、日本語、ヨーロッパ諸語、アジア・アフリカ諸語など多数の外国語科目を開講することで大学のグローバル化を推進し、全学の学生が以下に掲げる3つの能力や知識を身につけることを目指しています。

- 1) グローバル化、多様化の進む世界の中で活躍していくために必要な外国語の運用能力
- 2) 外国語を使って自らの考えを論理的に構成し、発表し、更に議論できる素地
- 3) 複言語主義に基づいたさまざまな言語と文化に対する理解

この目標を実現するために英語、初習言語、日本語のそれぞれで以下のようなカリキュラムを設定しています。

【英語】1年次の必修科目 **ACADEMIC COMMUNICATION (AC) 1&2**では、内容言語統合型学習 (CLIL) の手法を取り入れています。AC1では英語で学び考えるための運用能力 (EAP= English for Academic Purposes) を高め、AC2では、AC1で身につけたスキルをもとに学術的な内容を英語で学ぶことで、批判的思考力や協働力を伸ばします。AC1の修得者を対象として、各自の専門性や必要性、興味関心に応じて自由に履修できる選択科目を配置し、機能的英語能力を身につけさせます。

【初習言語】ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、イタリア語では、「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく身につけることを目的とした週2回の総合科目を軸に、初級から上級までを5つのレベルにわけて段階的に学べるように編成しています。さらに、各自の目的と興味に応じて履修できる選択科目を置き、発展的・応用的な力を身につける機会を提供しています。上記6言語以外については、各言語の特性に応じた運用能力を高めることを目的とし、初学者から段階的に学べる科目編成としています。

【日本語】欧米やアジア諸国などからの留学生を対象としたノンネイティブ向けのクラスから、帰国生やインターナショナルスクール出身者などの日本語ネイティブ向けのクラスまで、多様化している学習背景や必要度を考慮した幅広い科目編成を行い、学生が各自の必要度に合った科目を履修し、段階的に日本語の運用能力を高める機会を提供しています。

13. 大学のアドミッション・ポリシー

1) 大学全体のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本学は、カトリシズムの精神を基盤に、次の4つを柱とする人材養成を教育の目標としており、それらを高めたいと望む学生を受け入れます。

1. キリスト教ヒューマニズム精神の涵養

本学の建学の理念であるキリスト教ヒューマニズムに触れてこれを理解すること、他者や社会に奉仕する中で自己の人格を陶冶すること、真理の探究と真の自由を得るために自らを高めること。

2. 他者に仕えるリーダーシップの涵養

他者のために、他者とともに生きる精神-” Men and Women for Others, with Others” -を育むこと、社会から受ける恩恵を自覚し、それにともなう責任感を抱くこと、リーダーシップに必要な基礎能力を培うこと。

3. グローバル・コンピテンシーの養成

グローバル・イシューへの関心を抱くこと、複数の言語でコミュニケーションできること、さまざまな文化の違いを理解し、その違いを肯定的に受け止め、それらのかけ橋となれること。

4. 幅広い教養と専門分野の知識・能力の修得

幅広い教養やコミュニケーション能力など社会人としての基礎能力、専攻する学問分野における専門的知識・能力を修得すること。

上記を学力の3要素に対比させると、1・2に関連して、「主体性・対話性・協働性」を高めていこうとする人、3に関連して、「思考力・判断力・表現力」を深めていこうとする人、4に関連して、「知識・教養・技能」の獲得を目指そうとする人を本学は求めています。

2) 各入試におけるアドミッション・ポリシー

(次ページ参照)

上智大学アドミッション・ポリシー

本学の各入試制度で求める学生像は下記のとおり。

一般入試	学科別	個別学力試験では、「知識・教養・技能」を中心に、「思考力・判断力・表現力」を含めて評価します。 面接試験を行う学科ではこれらに加えて、「主体性・対話性・協働性」を評価します。
	TEAP利用型	個別学力試験では、記述式問題を通じて「思考力・判断力・表現力」を中心に、「知識・教養・技能」を含めて評価します。 面接試験を行う学科ではこれらに加えて、「主体性・対話性・協働性」を評価します。
特別入試	カトリック高等学校対象特別入試、指定校制推薦入試、公募制推薦入試	本学の建学の理念・教育方針を理解し、本学への入学を第一志望とする者を、高等学校在学中の学習成績、課外活動、社会活動など、個別学力試験では評価しがたい「主体性・対話性・協働性」、「思考力・判断力・表現力」といった資質、能力を調査書や自己推薦書、志望理由書などで評価するとともに、面接試験によって志望動機の強さや学科への適性、また、本学入学後の人間的成長・学力向上の可能性を多面的、多角的に評価することで、総合的な人物評価を行います。
	海外就学経験者(帰国生)入試、外国人入試、IB入試	本学の教育研究環境の多様性を実現するため、青少年期における異文化体験で身につけた個性、各国固有の教育制度下で培われた「知識・教養・技能」や「思考力・判断力・表現力」、「主体性・対話性・協働性」などを、個別学力試験および面接試験により、多面的、多角的に評価することで、総合的な人物評価を行います。
国際教養学部入試 理工学部英語コース入試		多様な人材を広く世界から受け入れるため、書類選考を行っています。また、すべての授業を英語で行っているため、TOEFLやIELTSのスコア、SAT、ACT、IBなどにより、各国の教育制度を考慮した選抜を行っています。これらの各種試験のスコアで「知識・教養・技能」を評価するとともに、英文のエッセイや推薦状(2通)などにより、「思考力・判断力・表現力」や「主体性・対話性・協働性」を評価します。

本学の各入試制度で特に重視する学力の要素は下記のとおり。

入学者選抜方法	区分	知識・教養・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体性・対話性 ・協働性
一般入試	学科別	◎	○	○ (面接該当学科)
	TEAP利用型	○	◎	○ (面接該当学科)
特別入試	カトリック高等学校対象特別入試、指定校制推薦入試、公募制推薦入試	○	○	◎
	海外就学経験者(帰国生)入試、外国人入試、IB入試			
国際教養学部入試 理工学部英語コース入試		◎	○	○

SPSF対象学科の教育研究上の目的、人材養成の目的及び3つのポリシー

新聞学科

〔教育研究上の目的〕

ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション全般を対象に、その社会的役割や機能、影響過程など、報道やメディアに関わる諸問題を幅広く考察すること

〔人材養成の目的〕

社会人に必要なコミュニケーションに関する教養を備え、高度なコミュニケーション能力とメディア・リテラシーを身につけた人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、情報といった諸領域を対象としたこれまでの学問的蓄積と、それらを踏まえた実践的な調査能力、分析力、批判力、構成力、表現能力
2. 「理論と実践」の両面からバランスよく学び、ジャーナリズムの現場やメディア・コミュニケーション、情報などを扱う分野で活躍するための能力
3. 情報化が進む現代社会を、よりよく生きるための高度なコミュニケーション能力とメディア・リテラシー

なお、上記に加え、SPSFでは6学科（新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科）共通要件として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。

4. Sustainable Futuresについての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
5. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の5学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. ジャーナリズム、メディア・コミュニケーション、情報に関する諸領域を、理論的アプローチ、国際的なアプローチ、現実的な諸問題の分析アプローチから学ばせる。
2. 上記カリキュラムと並行して、その表現力、検証力、批判力などの能力の向上に向けた実践的アプローチもバランスよく扱うことで、「理論に偏せず、実践にも偏らない幅広い教育」を実現する。
3. 全ての学生が、専任教員が担当する個別の演習を履修し、小人数教育のなかで、批判的な見方や研究・分析の能力、倫理を醸成する。
4. 4年間で修得した知識、分析力、技能の集大成として、専任教員の個別指導の下で卒業論文を課す。

なお、上記に加え、SPSFでは6学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュ

ラムを編成しています。

5. 1年次にはSPSF共通科目でSustainable Futuresの基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futuresを巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3年次にはSPSF共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futuresを巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
6. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

【アドミッション・ポリシー】

本学科では、以下のような学生を受け入れます。

1. 情報化が進む現代社会において、ジャーナリズムやメディア・コミュニケーションの諸領域に積極的な関心を持ち、それを深く学び、考える意欲がある。
2. 現代社会に対する問題関心を突き詰める姿勢と、それらの問題について批判的に検証する論理的な思考力、判断力がある。
3. 自らの問題関心に基づいた調査研究の成果を表現する能力、説明する対話力がある。

教育学科

〔教育研究上の目的〕

人間と教育をめぐる諸問題を教育学的観点から総合的・多角的に考究し、人間尊重の教育を実現する力を養うこと

〔人材養成の目的〕

人間の尊厳を基底に置く、人間性と専門性に優れた教員や研究者を養成するとともに、国際社会でも活躍できる自立性と教育学的教養を備えた人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 教育学と関連する諸学に関する幅広い知識を身につけ、人間と教育を巡る諸問題を教育学的に考察するとはどういうことかが理解できると共に、人間尊重の教育に関する豊かな実践的イメージを持つ能力
2. 学校・社会・家庭・企業などで行われている教育的営みと、そこで生じる現象や問題について、哲学・歴史学・社会学・心理学などの知識と方法を用いて教育学的に読み解くと共に、人間尊重の教育を実現する筋道について総合的・多角的に考究し、自らの考えを的確に表現する能力
3. 人間の尊厳を基底に置き、国際的な視野を携えて、教育に関わる問題解決や人間尊重の教育の実現に向け、多様な他者と主体的・友好的に協働し、絶えざる自己省察を繰り返しながら粘り強く取り組む能力

なお、上記に加え、SPSFでは6学科（新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グロー

バル学科) 共通要件として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。

4. Sustainable Futuresについての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
5. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の5学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 総合人間科学部の他学科と同様に「全学共通科目」、「語学科目」、「学科科目」で構成され、広い教養と深い専門性の調和的実現を目指す。
2. 教育学を国際的な観点から把握し、その独自の学問性を体系的に身につけられるよう、比較教育学、国際教育学、国際教育開発学などの国際的領域科目を中心に、教育哲学、教育社会学、教育方法学等を配置する。
3. 1・2年次では、学問・研究の基礎となる批判的思考や発信力の強化を目指すと同時に、国際的領域科目および教育学の基礎的な諸領域科目を必修及び選択必修として履修し、基礎的な事項や視点、方法論を学ぶ。
3年次には、1・2年次の学びを基盤にゼミ(演習)を選択し、人間と教育を巡る問題へのアプローチと、そのために必要な思考力・判断力・表現力の基礎を身につける。
また、一人ひとりが独自に探究する課題を定め、取り組むことで、事象を教育的に読み解き問題解決の筋道を模索する能力、人間の尊厳を希求する態度、国際的な視野などを育む。
4年次には、卒業研究と論文の作成もしくはプロジェクト課題に取り組むことを通して、人間尊重の教育を実現する筋道について総合的・多角的に考究し、自らの考えを的確に表現できるようになると共に、絶えざる自己省察を繰り返しながら問題解決に粘り強く取り組む資質・能力を身につけさせる。
4. 国際的領域科目と他教育学諸領域科目で構成された立体的な学びを通して教育学を体系的に身につけると共に、他学科のSPSF科目履修を通じて「持続可能な社会」について教育学のみならず多様な観点から考え、課題探求のための一般的な社会科学研究手法を身につけさせる。また、各自の問題関心や将来展望に即して、SPSF内外の他学部・他学科科目、および留学やインターンシップやスタディツアーといった実践型プログラムを含めた多様な科目群からの履修を可能にすることで、グローバル社会に生きるための素養を育む。なお、一定の日本語能力を有する学生は、上限単位等の一定の制約の中で、教育学内外の選択科目を履修することが可能であり、幅広い学びの選択肢を提供している。
5. より主体的・対話的な深い学びを実現すべく、学習方法にも工夫を施している。講義ではリアクションペーパーへの記入を求め、次の授業時に教員がコメントしたり、整理された多様な意見について、さらに学生同士で議論したりする。ゼミでは個人やグループでの発表と討議が基本となるが、さらに国内外の他大学のゼミとの交流活動や、海外も含めたフィールドワークを行うこともある。卒業論文やプロジェクト成果の最終審査は公開での発表会としており、多くの聴衆を前に効果的なプレゼンテーションを工夫する場としている。
6. 一人ひとりの学習の成果や状況について、より多面的できめの細かな評価を実現すべく、学期末試験に加えて、授業中のリアクションペーパーやワークシート、議論やグループワークへの参加・貢献状況の見とり、学期の途中でレポート提出や試験の実施など、様々な評価指標・評価方法を組み合わせた評価を行っている。

なお、上記に加え、SPSFでは6学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

7. 1年次にはSPSF共通科目でSustainable Futuresの基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futuresを巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3年次にはSPSF共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futuresを巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
8. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

〔アドミッション・ポリシー〕

人間と教育をめぐる諸問題に関心を持ち、それらの問題を柔軟かつ複眼的に思考することのできる学生を受け入れます。また、国際社会や異文化に対して広い関心を有する探究心の旺盛な学生を求めています。

1. 人間と教育をめぐる諸問題に関心を持ち、その解決に取り組む意欲を抱く学生を求めています。その際、国際社会や異文化に対して広く関心を有する探究心の旺盛な学生を特に歓迎します。
2. 学習の基礎力として、どの入試種別においても、英語を用いて論理的に思考し、表現する能力と、基礎的なコミュニケーション能力を要求しています。その上で、自らの考えを率直に表現できると共に、広く寛容な姿勢で他者の考えを受け入れ、柔軟に発想し、複眼的に思考することのできる学生を求めています。

社会学科

〔教育研究上の目的〕

社会に関する問題関心を養い、社会現象に社会学的視点からアプローチし、実証的な方法を用いて分析し、そのメカニズムを理解する能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

社会学的な思考法と方法論を習得し、実践的な場面で、国際的な視野と人道的な立場から問題解決について提言できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科では、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向けて、次のような能力をもつ人材を養成することを目的として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 社会について様々な問題関心を持ち、社会現象の理解に社会学的視点をもってアプローチできる能力
2. 基礎的な理論と実証的な方法を用い、社会現象のメカニズムについて理解と分析をする能力
3. 現代社会の諸領域の特徴を社会構造と社会変動との関連の中で把握する能力
4. 多様な他者を理解し、他者と共存する社会の形成に向けて、社会学的な視点を活かした問題解決が提言できる能力

なお、上記に加え、SPSFでは6学科（新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科）共通要件として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。

5. Sustainable Futuresについての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な

分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。

6. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の5学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 基本的な社会学的視点と、問題関心を社会的に設定する方法について、少人数の演習によって修得させる。
2. 社会学の基幹となる「理論と方法」について、社会学理論によって論理的思考法、問題意識の概念化・モデル化を理解し、社会調査法による質的調査および量的調査の技術を修得させ、社会現象の分析能力を養う。
3. 身につけた理論と方法を現代社会の特定領域に応用して、その構造と変容の理解を深める。
4. 各自の問題意識にもとづいて研究課題を設定し、人間の尊厳を重視したグローバルな視野から、高度な社会学的な分析と考察ができる力を養成する。

なお、上記に加え、SPSFでは6学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

5. 1年次にはSPSF共通科目でSustainable Futuresの基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futuresを巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3年次にはSPSF共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futuresを巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
6. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科は、学位授与に向けた人材養成の目的を達成するため、以下のような意欲や関心を持つ学生の受け入れを希望します。

1. 社会や文化と個人との多様な関係を深く理解するため、政治・経済・歴史など社会の広い領域への関心を持つこと。
2. 論理的な思考力とコミュニケーションへの積極的な姿勢を持ち、さらにそれを鍛えて、他者や社会に対する豊かな想像力を育みたいという強い意欲を持つこと。
3. 社会のメンバーが相互に理解しあい、その誰もが尊重される公正な社会の実現に向けて、自分なりの方法で貢献していきたいという将来構想を持つこと。

経済学科

〔教育研究上の目的〕

演習・英語による講義などの少人数教育及びミクロ・マクロ経済学などの基礎教育において、経済理論の基礎知識を深く掘り下げながら習得し、現代社会の経済課題について論理的・実証的に分析すること

〔人材養成の目的〕

日々の社会問題・現象を経済学的な視点から分析し、自前の概念装置により社会を評価する能力を国際的な場で活かせる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 経済学的な視点の根幹を成すミクロ経済学・マクロ経済学の考え方や概念について理解し、自分の言葉で説明する能力
2. 経済学の知識を土台として、概念装置としての「モデル」を自ら構築し、現代社会における現実的課題を理解し、課題解決の方法を考える能力
3. 多様な社会経済現象について、情報処理の知識と技能を駆使して、データに基づく統計的分析を遂行する能力
4. 高いレベルのコミュニケーション・スキルを身につけ、国際的な場でリーダーシップを発揮して課題解決に貢献する能力
5. 学生一人一人の個性（知識、能力、興味など）に応じて、現代社会で活躍できる高い専門性を修得する能力

なお、上記に加え、SPSFでは6学科（新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科）共通要件として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。

6. Sustainable Futuresについての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
7. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の5学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のとおりカリキュラムを編成しています。

1. 複数の専任教員が担当する必修科目（Introduction to Macroeconomics, Introduction to Microeconomics）を通して、経済理論の基礎的知識を修得させる。
2. ミクロ経済学あるいはマクロ経済学の応用科目（である選択必修科目）において、社会経済現象を「モデル」として記述して分析する方法を学び、論理的思考能力を修得させる。
3. 情報処理に関する科目（Introduction to Statistics, Introduction to Data Analysis）を通して、データに基づく統計的分析能力を修得させる。
4. アクティブ・ラーニング・セミナーと演習（ゼミ）では少人数のディスカッションやグループ学習を行い、他者と協力して課題を解決するためのコミュニケーション・スキルを修得させる。
5. 国際的な視点から、多様な専門科目（International Economics and Business, Environmental and Natural Resource Economics, Global Health Policies, Health Economics, International Finance, etc.）を選択必修科目として英語で開講し（ECOЕ: Economics Courses Offered in English）、経済理論の現代社会への応用について理解を深める。
6. ディプロマ・ポリシーで目標としている共通の基礎的な知識と能力を基盤として、さらにそれぞれの学生が自らの特性や興味にあった専門性を獲得することを支援するために、より専門性の高い経済学の科目に加え、経営学や他学部他学科科目を含む多様な専門科目を選択できるようにする。

なお、上記に加え、SPSFでは6学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

7. 1年次にはSPSF共通科目でSustainable Futuresの基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futuresを巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3年次にはSPSF共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futuresを巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
8. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科の基本的な教育目標は、現代社会を取り巻く現実的課題を解決するための論理的思考能力の涵養です。経済学的視点にもとづき構築したモデルを駆使する学問的特性から、経済学の論理には「数学的思考」が不可欠です。このため、本学科では、入試科目として、論理的思考の基礎となる国語・外国語（英語等）に加えて数学を必須科目とし、高い意欲をもつ優秀な学生を受け入れます。

1. 現代社会の諸問題に対して高い関心を持ち、社会に貢献できるようになりたいという高い意欲を持つ学生を求めています。
2. 論理的思考の基礎となる言語能力（自らの考えを整理して言葉で表現する力や他者の考えを理解する力）、および数学的な思考能力を備えた学生を求めています。
3. 学生が経済学科において、自ら主体的に行動し、対話を通じて他者を理解し、他者と協働できるようになることを期待します。

経営学科

〔教育研究上の目的〕

高度な専門知識及び幅広い教養を身につけ、社会とのかかわりにおいて多様な視角から経営を理解し、実践していく能力を養うこと

〔人材養成の目的〕

ローカル及びグローバルな社会との関連で経営を理解し、専門知識に基づいた合理的な意思決定を行うことによって、企業経営だけでなく、地域社会・国際社会などに貢献できる人材を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学科は、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. グローバル化・複雑化が進展していく経営環境を的確に分析するための知識や技能
2. 経営学の考え方や概念および専門的知識を理解し説明する能力
3. 現実社会における問題解決をリードするために、複雑で多様な情報を効率的に収集、処理し、問題解決へとリードする能力
4. 厳しい制約条件のもとで適切な意思決定をおこなうために、異質性や多様性を尊重する態度を持ち、

オープンでフェアな議論、および情報発信する能力

5. 高いレベルのコミュニケーション・スキルを身につけ、国際的な場でリーダーシップを発揮する能力

なお、上記に加え、SPSFでは6学科（新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科）共通要件として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。

6. Sustainable Futuresについての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
7. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の5学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

1. 1年次においてはMajor core科目「Introduction to Management 1」「Introduction to Management 2」において、専門的な学修を進めていく上で身に付けておかなければならない学修スキル、専門基礎知識、コミュニケーション能力、論理的な考え方、社会的な倫理観を修得させる。
2. 専門科目、および演習（ゼミ）において専門的知識を深め、現代社会の問題を解決するための能力を修得させる。
3. 4年間を通じた小人数科目で、主体的に学習に取り組む態度を身につけ、コミュニケーション・スキルの向上を目指す。
4. 実務経験者や実務家による現実的な実務感覚を養う科目、および実際のビジネスの現場を学ぶ科目を開講する。
5. 英語科目の履修により、国際共通語である英語の力を集中的に高めると同時に、英語以外の外国語修得も目指して外国語科目を設置する。

なお、上記に加え、SPSFでは6学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

6. 1年次にはSPSF共通科目でSustainable Futuresの基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futuresを巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3年次にはSPSF共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futuresを巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
7. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

〔アドミッション・ポリシー〕

本学科は企業の経営活動に関する高度な専門知識を体系的に学習すると同時に、グローバルな社会との関わりの中で経営活動を理解し、経営に関する合理的な意思決定により社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

1. 多様な現実社会の問題に対し関心を持ち、主体的に関わりあう意欲を持つ学生を求めています。
2. 多面的な視点から社会現象を論理的に分析して理解するために必要とされる日本語および外国語の能力、歴史などの社会科の素養、論理的能力に秀でた高い意欲を持つ学生を求めています。
3. 将来、営利組織、非営利組織を問わず、国内外の組織やプロジェクトにおいて活躍する意欲のある学生を求めています。

総合グローバル学科

〔教育研究上の目的〕

国際関係論と地域研究の二つに大別された科目群の双方を体系的に履修することで、1) グローバリティの理解、2) ローカリティの理解、3) 複言語（英語、地域言語）の運用能力、4) 倫理観に裏付けられた交渉能力 を習得させる

〔人材養成の目的〕

グローバル化の正負の側面に対処して、世界の人々が共に歩む共生社会の構築に貢献しようとする人材（国際的公共知識人）を養成すること

〔ディプロマ・ポリシー〕

本学部は、グローバル化の進行する現代にあって、人間の尊厳を守る公正な社会の実現に向け、国際的公共知識人たることを目指す学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。卒業要件を満たせば、これらを身につけた者と認め、学位を授与します。

1. 安全保障、紛争、貧困、開発、移民、難民、地球環境などに関心を持ち、それらがなぜグローバルに解決を要する問題であるか説明する能力
2. グローバル・スタディーズを支える国際関係論と地域研究の考え方や理論の全体像を理解し、双方の視点を組み合わせて考える能力
3. グローバル化の正負の側面について、具体的な事例に即し、基礎的な理論と実証的な方法を用いて分析を行い、問題解決の方法を構想する能力
4. 国際関係論と地域研究の2領域を専門として選択し、2領域を組み合わせた主題を設定し、調べる能力
5. 世界の諸地域に生活する多様な他者と対話し、共存する社会の形成に向けて、協力して問題解決に当たる能力

なお、上記に加え、SPSFでは6学科（新聞学科、教育学科、社会学科、経済学科、経営学科、総合グローバル学科）共通要件として、学生が卒業時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。

6. Sustainable Futuresについての基礎知識を修得の上、その必要性を理解し、自らの専門分野と様々な分野の知見を活用し、関連する諸課題の解決に向けた行動をとることができる。
7. 自らの専門分野に加え、6学科のうち、自らが所属する学科以外の5学科の様々な分野の視点や手法を理解し、多様な角度からものごとを考え、表現することができる。

〔カリキュラム・ポリシー〕

本学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. グローバル・スタディーズと、これを支える国際関係論および地域研究の基礎について講義を通じて学び、基幹となる理論と方法を修得させると共に、研究の基礎的な技能と姿勢を身につけさせる。

【100番台科目】

2. 国際政治や経済の動態を把握し、国際協力や市民社会のメカニズムについて講義を通じて学び、専門の選択に備える。

【200番台科目】

3. アジア、中東、アフリカ等について、歴史、文化、政治、経済他の諸側面から講義を通じて学び、専門の選択に備える。

【200番台科目】

4. 国際関係論と地域研究の2領域を専門とし、講義等を通じてグローバルな問題の解決策を構想し、実践する力を養う。

【300、400番台講義科目】

5. グローバル化の諸問題について、個別の課題を主体的に設定し、その研究成果を論文等の明確な形にして示す。

【200番台自主研究、400番台演習、400番台卒業論文・研究等】

6. 少人数の演習を通して、議論によって相互の理解を深め、各自の課題研究を支えあう姿勢を身に着させる。

【100番台グローバル・スタディーズ基礎演習、400番台演習】

7. 国際共通語である英語の力を高めると共に、英語以外の外国語修得を心がけて複言語能力を獲得させる。

【200番台以降の講義科目】

なお、上記に加え、SPSFでは6学科共通のディプロマ・ポリシーの達成を目的として、次のようにカリキュラムを編成しています。

8. 1年次にはSPSF共通科目でSustainable Futuresの基礎知識と各専門分野の視点から見た関連する問題を理解する。そこで得た知見を踏まえつつ、全学共通科目の選択科目を通じて、Sustainable Futuresを巡る諸課題に対する理解をさらに深めるとともに、各学科開講の専門科目を学び、各専門分野の視点・内容および手法を学ぶ。3年次にはSPSF共通科目で学んだ知識を統合し、Sustainable Futuresを巡る諸課題の解決に向けた実践力の基盤を養う。
9. 自学科の専門分野について段階的に学ぶとともに、他学部・他学科開講科目のうち選択必修や選択科目に指定された科目を中心に幅広く学び、多様な視点・内容や手法、包括的な考え方を身につける。

【アドミッション・ポリシー】

知的な関心と意欲を主体的努力によって伸ばし、グローバルな共生社会の形成に貢献しようとする以下のような学生を受け入れます。

1. グローバル化する世界が呈する正負の諸側面に対する大きな関心を抱き、中等教育において現代社会に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
2. 世界を構成するさまざまな地域や人々の多様性がもたらす人類の社会と文化の豊かさに対する大きな関心を抱き、中等教育において地理、世界史に関わる授業等を通して一定の知識を有する者。
3. 物事に対して根拠に基づいた論理的な思考ができ、かつ主体的に取り組むことができるよう努力を重ねてきた者。
4. グローバル化する世界の動きを理解するのに必要な文献を読解することのできる英語能力を有している者。

大学全体

〔教育研究上および人材養成の目的〕

イエズス会の設立による上智大学は、カトリシズムの精神にのっとり、学術の中心として、真理を探求し、広い知識と深い専門の学芸を教授し、知的、道徳的及び応用的能力の展開による人間形成につとめ、有能な社会の先導者を育成するとともに、文化の発展と人類の福祉に寄与することを目的としている。

〔アドミッション・ポリシー〕

1) 大学全体のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

本学は、カトリシズムの精神を基盤に、次の4つを柱とする人材養成を教育の目標としており、それらを高めたいと望む学生を受け入れます。

1. キリスト教ヒューマニズム精神の涵養

本学の建学の理念であるキリスト教ヒューマニズムに触れてこれを理解すること、他者や社会に奉仕する中で自己の人格を陶冶すること、真理の探究と真の自由を得るために自らを高めること。

2. 他者に仕えるリーダーシップの涵養

他者のために、他者とともに生きる精神-” Men and Women for Others, with Others” -を育むこと、社会から受ける恩恵を自覚し、それにとまなう責任感を抱くこと、リーダーシップに必要な基礎能力を培うこと。

3. グローバル・コンピテンシーの養成

グローバル・イシューへの関心を抱くこと、複数の言語でコミュニケーションできること、さまざまな文化の違いを理解し、その違いを肯定的に受け止め、それらのかけ橋となれること。

4. 幅広い教養と専門分野の知識・能力の修得

幅広い教養やコミュニケーション能力など社会人としての基礎能力、専攻する学問分野における専門的知識・能力を修得すること。

上記を学力の3要素に対比させると、1・2に関連して、「主体性・対話性・協働性」を高めていこうとする人、3に関連して、「思考力・判断力・表現力」を深めていこうとする人、4に関連して、「知識・教養・技能」の獲得を目指そうとする人を本学は求めています。

さらに、各学部・学科は、教育・研究対象とする学問分野の特性などにあわせ、以下のアドミッション・ポリシーによって学生を受け入れます。

2) 各入試におけるアドミッション・ポリシー

＜国際教養学部入試・理工学部英語コース入試・SPSF入試＞

多様な人材を広く世界から受け入れるため、書類選考を行っています。また、すべての授業を英語で行っているため、TOEFLやIELTSのスコア、SAT、ACT、IBなどにより、各国の教育制度を考慮した選抜を行っています。これらの各種試験のスコアで「知識・教養・技能」を評価するとともに、英文のエッセイや推薦状（2通）などにより、「思考力・判断力・表現力」や「主体性・対話性・協働性」を評価します。

以 上